



Arcserve Unified Data Protection 8.x のご紹介

2021年 9月

Arcserve Japan



アジェンダ

- 1. Arcserve UDP の概要とフォーカスエリア**
- 2. 様々なクラウド利用のニーズへの対応**
- 3. セキュリティの確保・ランサムウェアへの対策**
- 4. ライセンス**



1. Arcserve UDP の概要とフォーカスエリア



Arcserve Unified Data Protection (UDP)

イメージバックアップをベースにArcserveシリーズ
を統合したバックアップソリューション

Arcserve UDP

統合バックアップソリューション

Arcserve Backup

データ保護の大黒柱
頼れるバックアップ

Arcserve Replication/HA

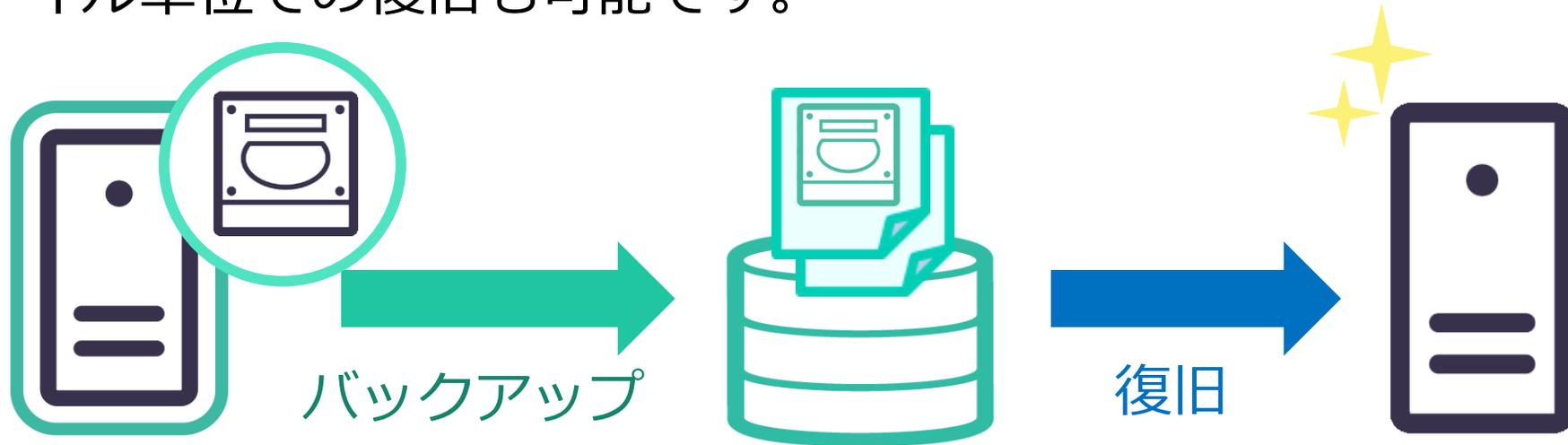
レプリケーションの
デファクトスタンダード



簡単イメージバックアップ Arcserve UDP

イメージバックアップとは

ファイル単位ではなく、ディスク全体を丸ごと高速にバックアップします。
OSやデータを含むシステム全体をまとめて簡単に復旧できます。
個別のファイル単位での復旧も可能です。



Arcserve UDPは異なる機種への復旧やP2Vも標準サポート！
(物理から仮想への復旧)



Arcserve UDP のフォーカス エリア





Arcserve UDP のフォーカス エリア

簡単

簡単！でも **柔軟に バックアップ**

簡単なだけでなく、小規模・大規模、物理・仮想・クラウド、Windows・Linuxを問わず、柔軟なバックアップやリストアを実現

仮想

仮想化統合基盤に関わる要件をまとめて対応

大規模仮想化統合基盤や、仮想基盤に統合できない物理サーバの保護、テープへのバックアップなどもまとめて Arcserve UDP で解決！

災対

災害対策を適切なコストで実現

ストレージやネットワークを効率的に利用し、全体コストを抑えてシステムの災害対策を実現



簡単

簡単！でも柔軟にバックアップ

運用を簡単にし、管理者の負担を軽くする機能を **多数** 実装しました

継続的な増分バックアップ

初回のフルバックアップ以降は増分バックアップだけで運用



アプリケーションの簡単バックアップ

Oracle、SQL Server、Exchange、SharePoint を OS とまとめてオンラインバックアップ/復旧できるため、運用が簡単!



OS & アプリケーション

ベアメタル復旧

システム全体を簡単に復旧。異なる機種への復旧やP2Vも標準サポート!



ドラッグ&ドロップによる簡単ファイルリストア

Windows エクスプローラまたは、Linux ファイルブラウザを使い、直感的な操作でファイル リストア



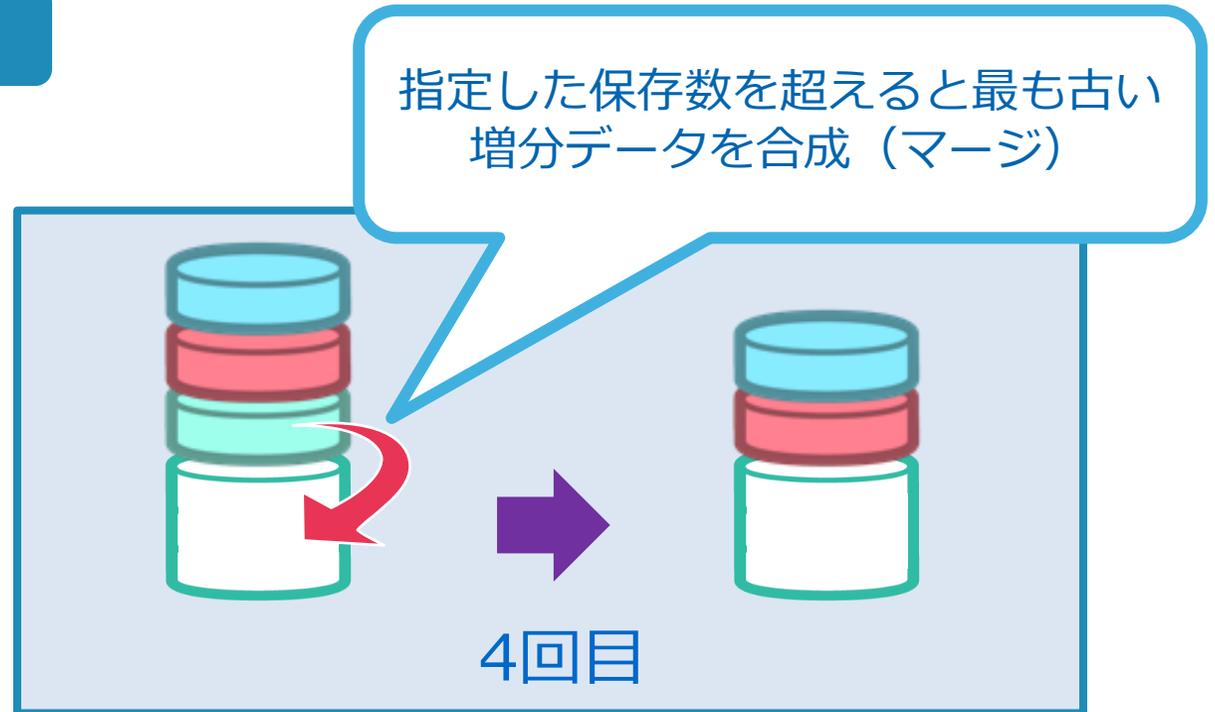
Windows / Linux



継続的な増分バックアップの効果

2回目以降フルバックアップの取り直しが不要なため、
バックアップ時間短縮とディスク使用量の節約が可能!!

バックアップデータを3世代保存する場合



※初期設定では7世代を保存(最大1440世代まで設定可)



復旧も高速イメージ リストア

Windows のリストア オプションで、ブロック レベル リストアの選択が可能

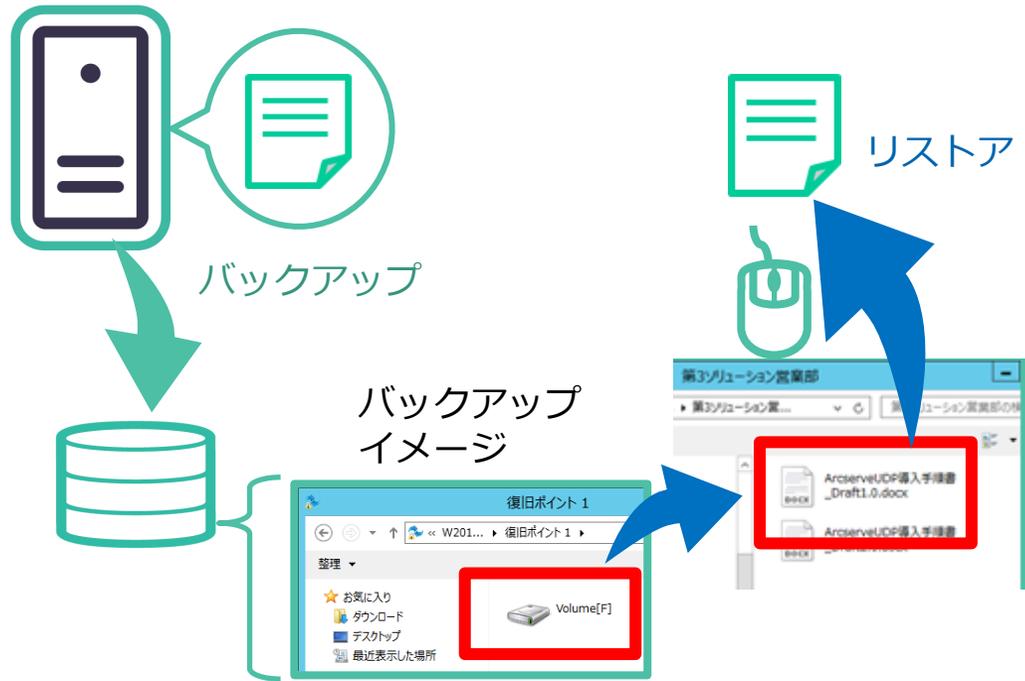


多数のファイルが格納されたボリュームも短時間に復旧

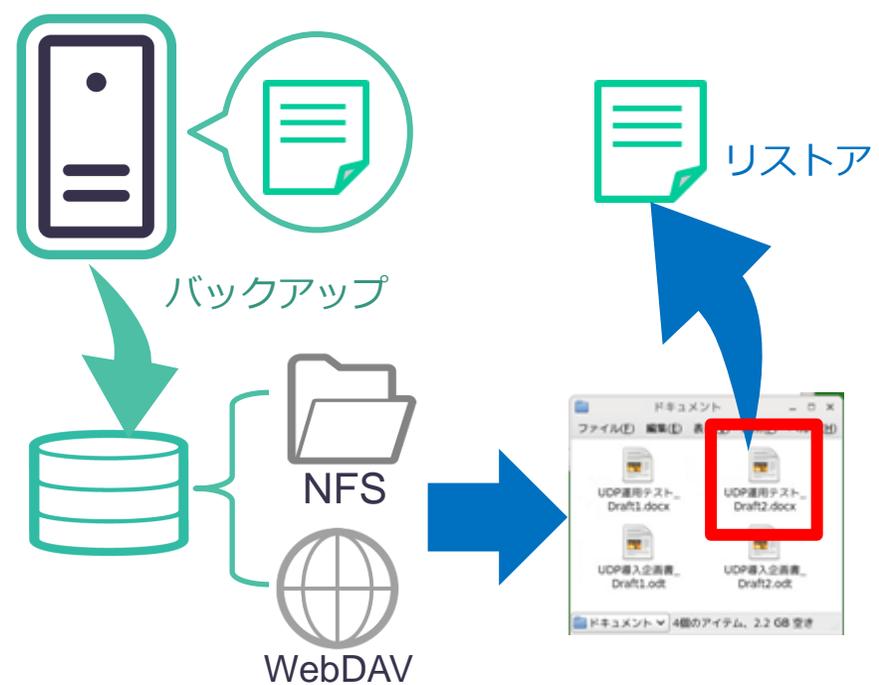


ドラッグ & ドロップによる簡単ファイルリストア

Windows 環境



Linux 環境

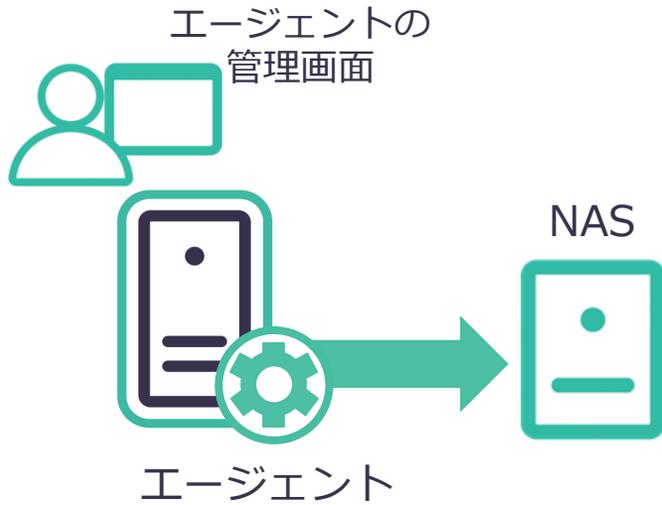


Windows も Linux も、簡単操作によるファイル リストアを実現



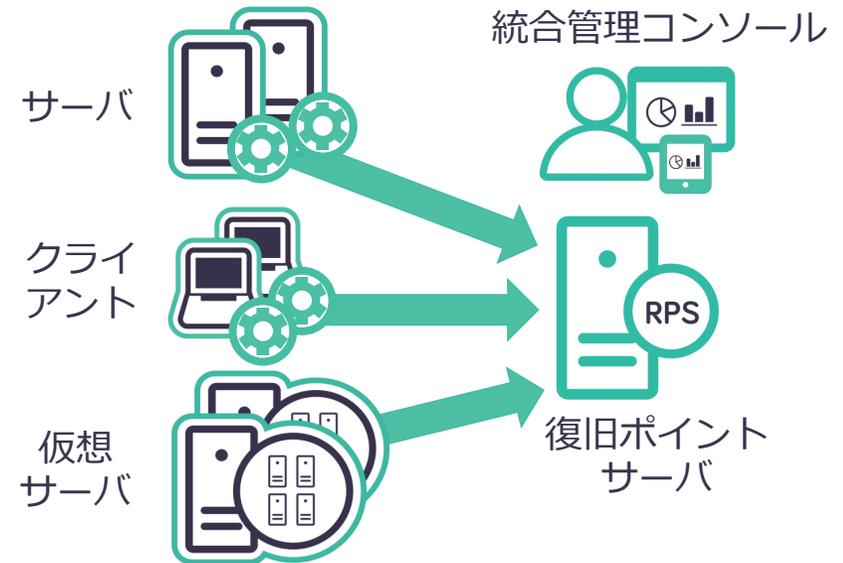
複数サーバ環境でも簡単なバックアップ運用を実現

単体サーバのバックアップ



エージェントだけでバックアップ運用

複数サーバのバックアップ



複数の対象を一元管理で、まとめてバックアップ運用

システム構成の変更に合わせて**拡張可能！！**



その他の機能

リソース構成ウィザードによる初期設定の簡略化

物理サーバや仮想マシンなど複数のバックアップ対象の登録やバックアップ先など必要な設定をウィザード形式で順に設定するだけで、初心者でも簡単に設定可能！

柔軟なバックアップ設定

- 指定した曜日や日次/週次/月次のバックアップスケジュールが設定可能
- 週次や月次、曜日指定のスケジュールを組み合わせた柔軟なスケジュール設定が可能

Active Directory のオブジェクトレベルリストア

- 誤って消してしまったActive Directoryのユーザやコンピュータ アカウントなどを個別のオブジェクト単位でリストア可能
- オンラインで Active Directory オブジェクトのリストアが可能。業務への影響を最小化

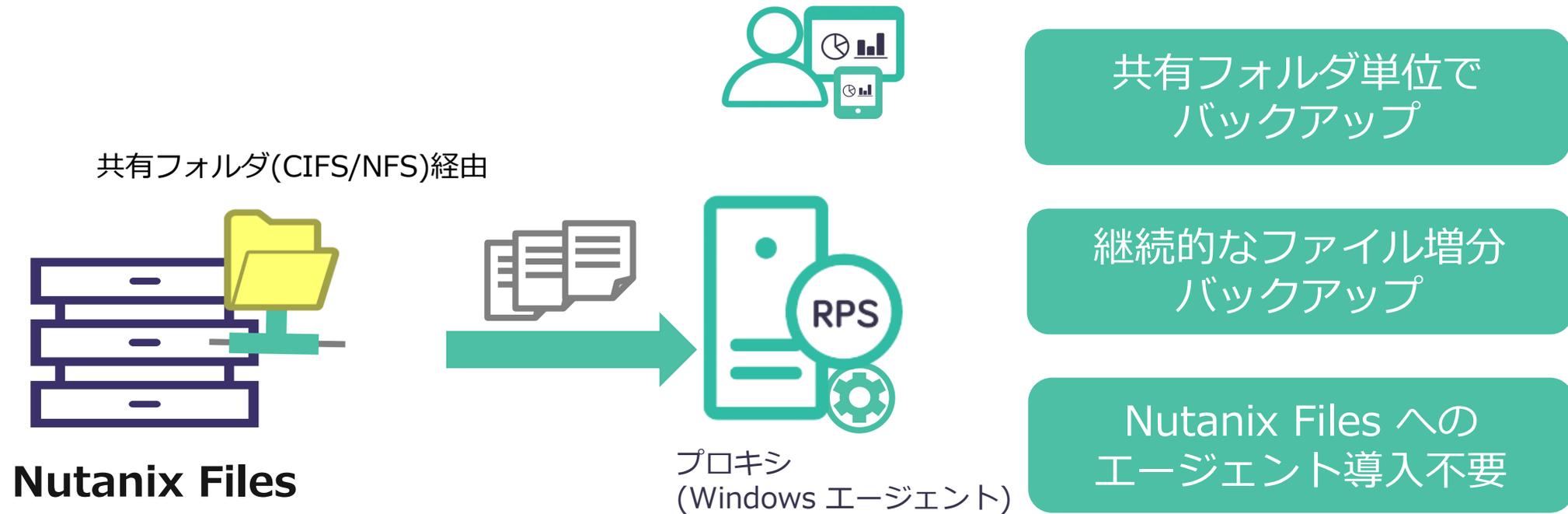
共有フォルダ (CIFS/NFS) のバックアップ

- エージェントが導入できない NAS やストレージ上のデータのバックアップを実現
- CIFS/NFS経由でファイル単位の継続増分 + 重複排除バックアップが可能



Nutanix Files のバックアップ 8.0

バックアップソフトが導入できない Nutanix Files 内のデータをバックアップ



Nutanix Files スナップショットと連携して、高速に増分を検出！



Arcserve UDP のフォーカス エリア





仮想化統合基盤に関わる要件をまとめて対応

仮想環境に統合するシステムに求められる多くの機能を盛り込みました

物理・仮想マシンの統合管理

物理、仮想のバックアップ/リストアを1つの画面でまとめて監視・管理



エージェントレスバックアップ

仮想マシンにエージェントを入れずに丸ごとバックアップ & ファイル単位のリストアを実現

Microsoft Hyper-V
VMware vSphere
Nutanix AHV



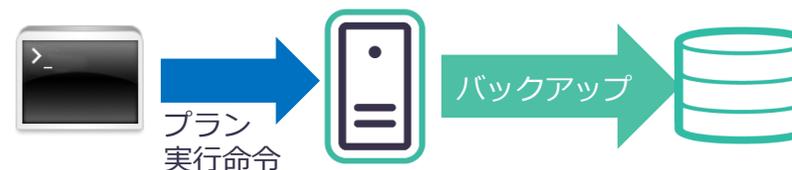
イメージバックアップのテープ保管

UDP コンソールを使い、Arcserve Backup と連携して UDP バックアップ データをテープに複製



コマンドラインインターフェイス

運用管理ツールとの連携によって、バックアップ運用を自動化





統合管理を実現する Arcserve UDP のコンポーネント

Arcserve Unified Data Protection

エージェント

物理・仮想マシンの
バックアップを実行



コンソール (統合管理サーバ)

スケジュール管理
および操作画面を提供



復旧ポイント サーバ

バックアップデータの
格納庫を提供



環境に合わせて構成変更が可能



コンソール

こんな時に
便利！

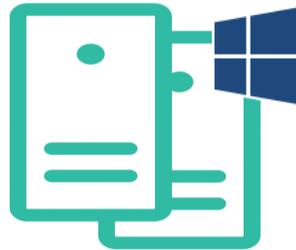
→ Windows / Linuxをまとめてバックアップしたい

→ 物理や仮想環境、クラウドのバックアップをまとめて管理したい

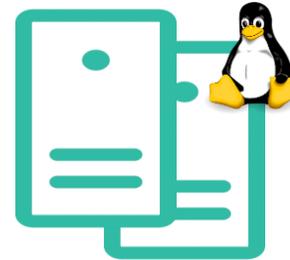
仮想マシン
(エージェントレス)



物理サーバ (Windows)



物理サーバ (Linux)



クライアントPC

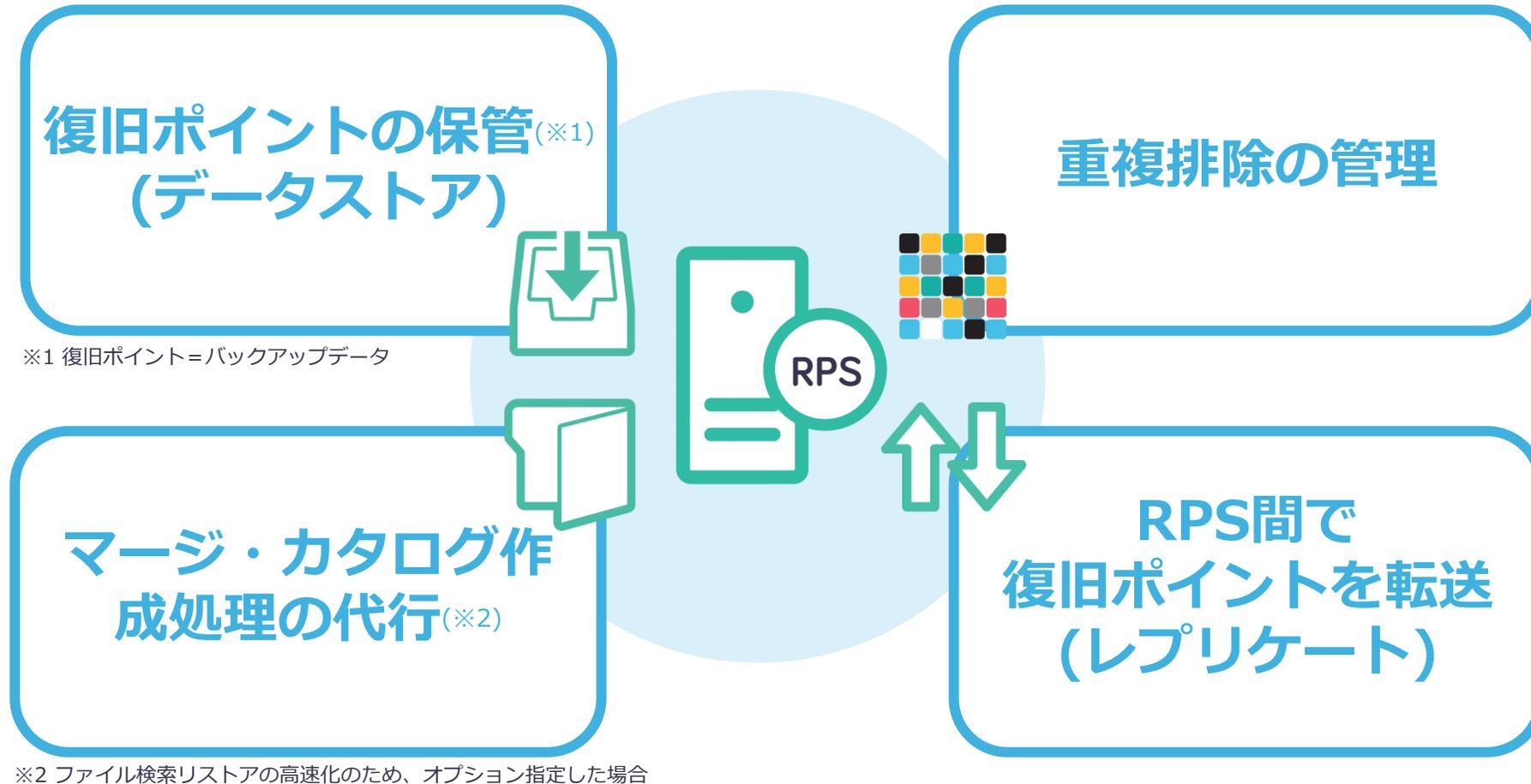


The screenshot shows the Arcserve Unified Data Protection console. The main area displays a table of nodes with columns for 'ステータス' (Status), 'ノード名' (Node Name), 'VM名' (VM Name), and 'プラン' (Plan). The table lists several nodes, including '10.58.174.200', '10.58.174.107', '10.58.174.154', and '10.58.174.217'. The '10.58.174.217' node is selected. On the right side, there are panels for 'ステータス' (Status), '最新のジョブ (タスク別)' (Latest Jobs by Task), and '最近のイベント' (Recent Events). The '最新のジョブ' panel shows a successful backup job for 'バックアップ コール' (Backup Call) on 2019/09/08 17:50:43. The '最近のイベント' panel shows several successful events like 'バックアップ - フル' (Backup - Full), 'RPS ↓', 'バックアップ', 'レプリカ', and '削除'.

インターネットブラウザを使って
どこからでも簡単にアクセス可能



復旧ポイントサーバ (Recovery Point Server : RPS)

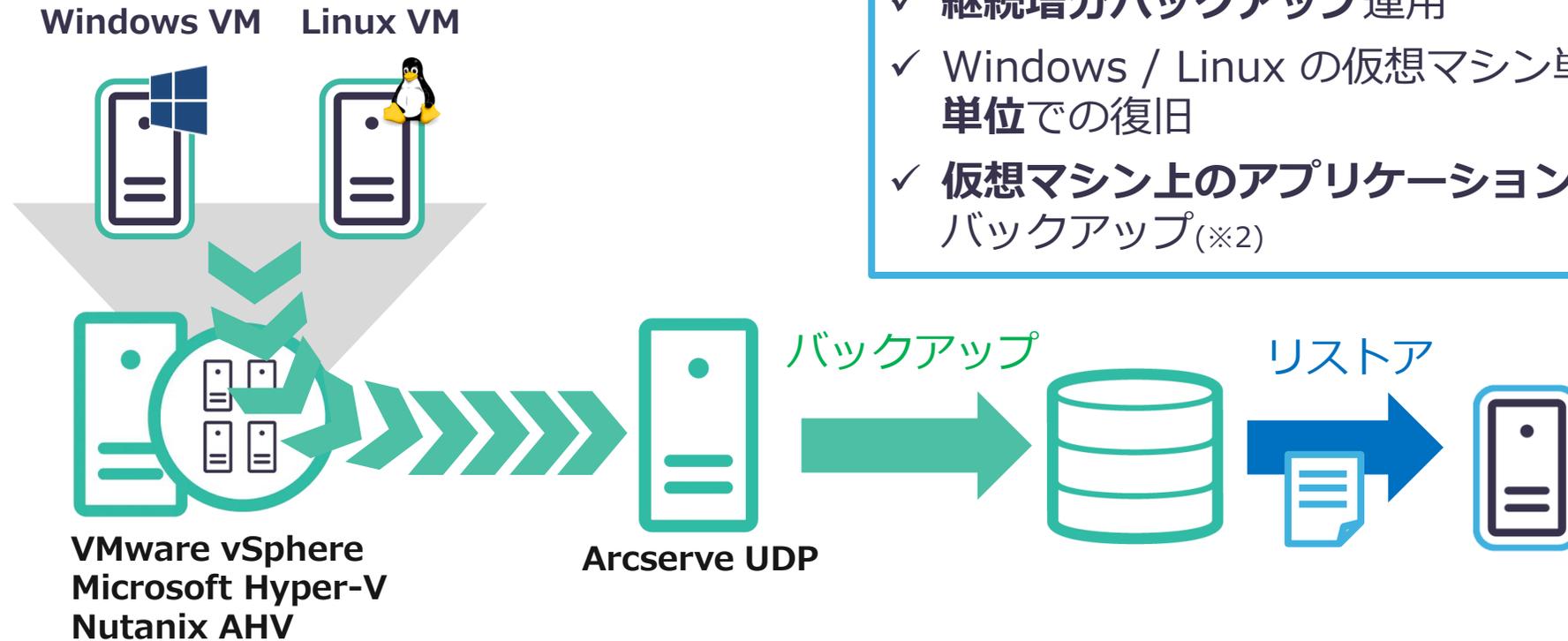


複数サーバのバックアップ運用を効率化



仮想環境のエージェントレス バックアップ

VMware vSphere、Microsoft Hyper-V、Nutanix AHV ※1 の 仮想マシンを エージェントレス でバックアップ



エージェントレスでも可能！

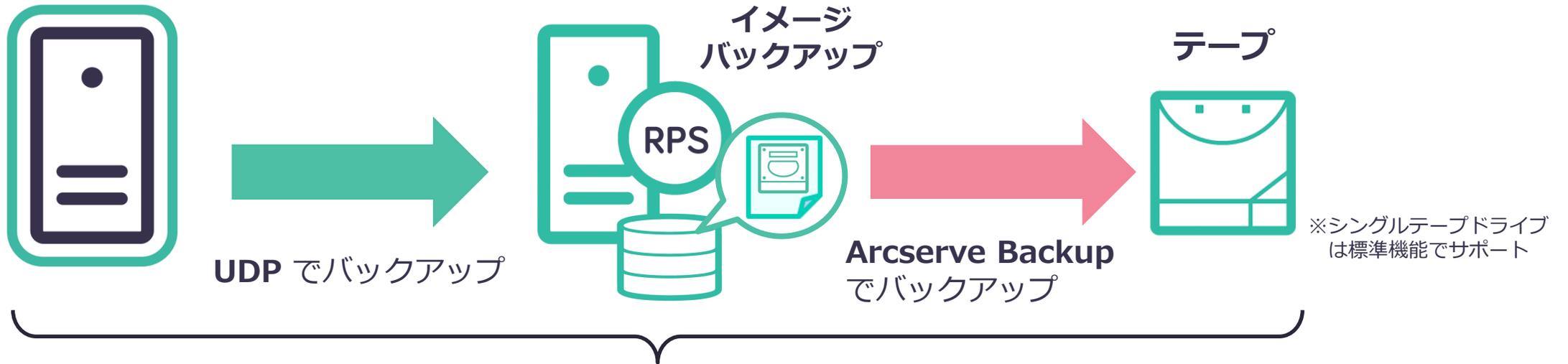
- ✓ 継続増分バックアップ運用
- ✓ Windows / Linux の仮想マシン単位・ファイル単位での復旧
- ✓ 仮想マシン上のアプリケーションをオンラインバックアップ(※2)



イメージ バックアップのテープ保管

ここが
ポイント!

- UDPのバックアップ データを Arcserve Backup でテープ保管
- バックアップ データの長期保管や監査要件に対応



UDPコンソールで一括設定

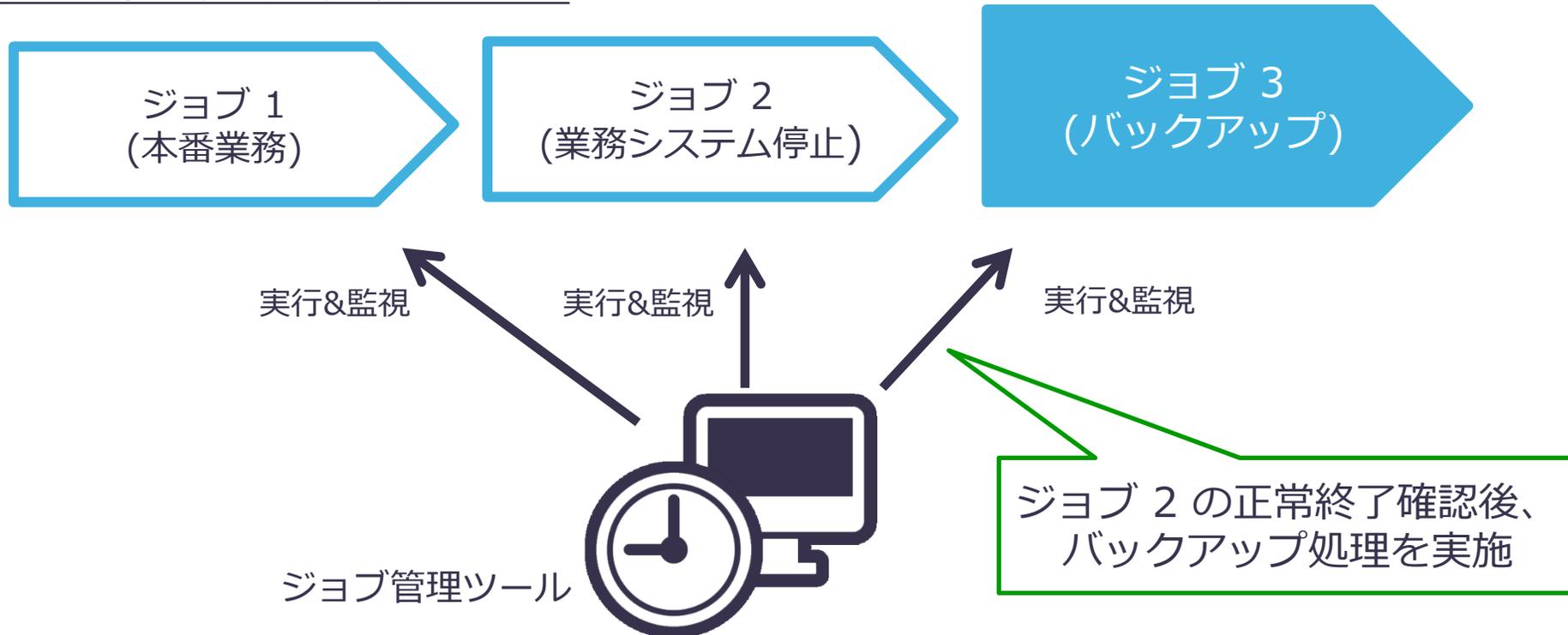


コマンドライン インターフェースによる柔軟なバックアップ運用

こんな時に
便利！

- ➔ バックアップ/リストアをスケジュール以外で自動実行したい場合
- ➔ ジョブ管理ツールからバックアップ処理を実行したい場合

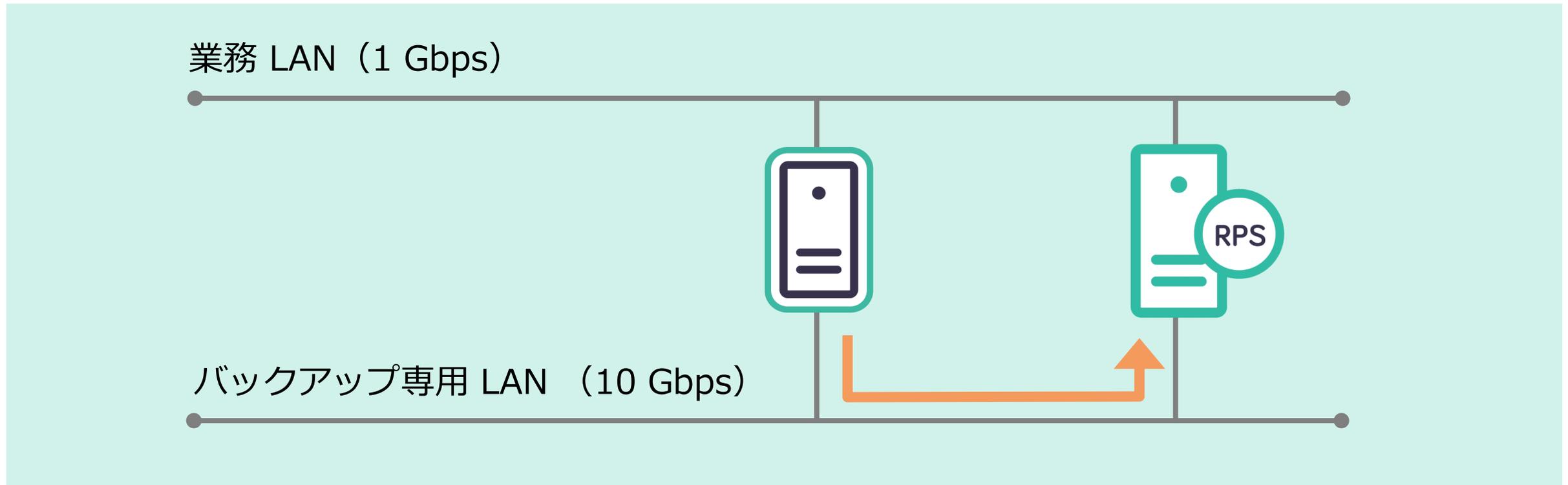
ジョブ管理ツールとの連携フロー例





「バックアップのネットワーク指定」の使用例 7.0U1

業務 LAN より高速なネットワークをバックアップ専用 LAN として指定すれば、
バックアップ時間の短縮が期待できます！

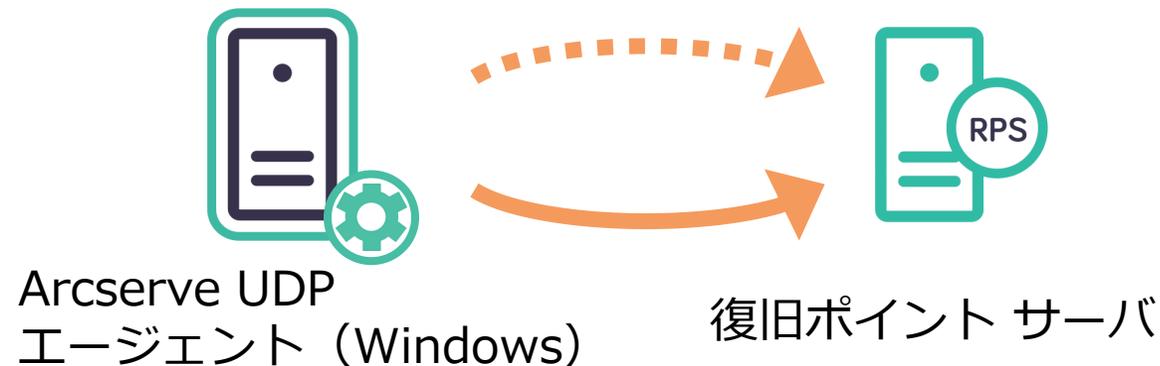


Windows エージェントと、仮想のエージェントレスに対応



Windows エージェントでのバックアップ

Arcserve UDP エージェント (Windows) 導入サーバと復旧ポイントサーバ (RPS) 間のバックアップ経路を指定できます。



仮想マシンの エージェントレス バックアップ

ハイパーバイザーとバックアップ プロキシ間、バックアップ プロキシと RPS 間のバックアップ経路をそれぞれ指定できます。



※ ハイパーバイザーは ESXi、Hyper-V、Nutanix AHVに対応しています。



ネットワーク指定の強化 8.0

バックアップ以外でも、レプリケートやリストアに使用するネットワークを指定可能に

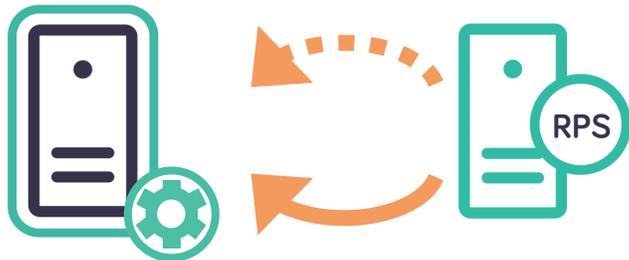
Linux エージェントでのバックアップ



RPS 間のレプリケート



Windows / Linux のファイルリストア



8.1

※SMB マルチチャンネルが有効な環境においても、リストアに使用するネットワーク指定が可能になりました

VM の復旧



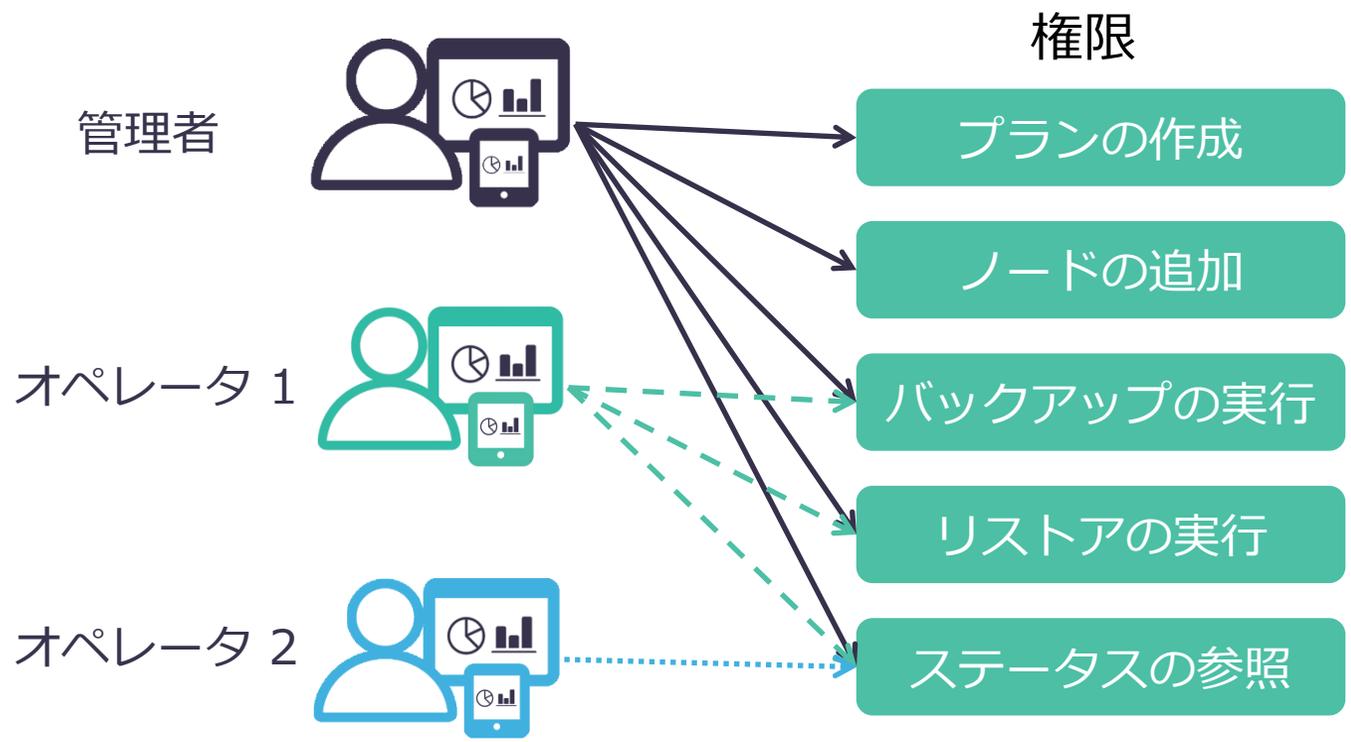
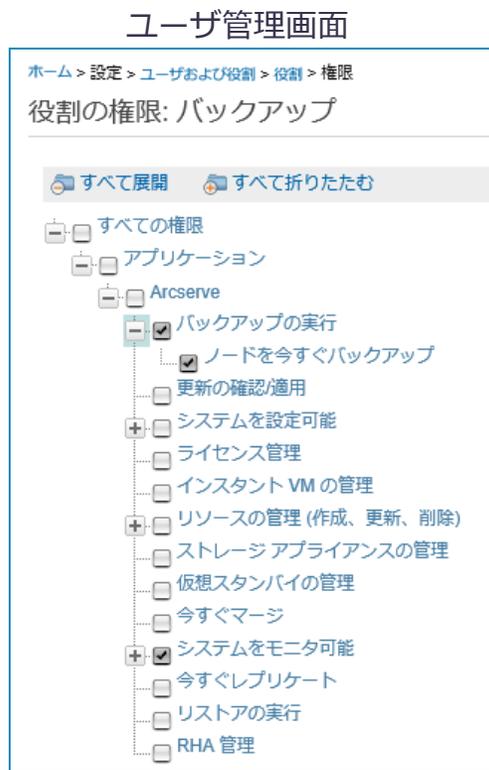
※ デデュプリケーション機能の有効/無効によって、ネットワーク指定が有効に働かない構成があります。詳細は以下の技術情報をご覧ください。
Windows Agent 又はエージェントレスバックアップ : <https://support.arcserve.com/s/article/2021040201?language=ja>
Linux Agent ファイルリストア : <https://support.arcserve.com/s/article/2021040202?language=ja>



ユーザ管理による権限の割り当て

こんな時に便利！

- ➔ 管理者以外にはバックアップ設定を変更させたくない
- ➔ オペレータにはステータス参照だけを許可したい



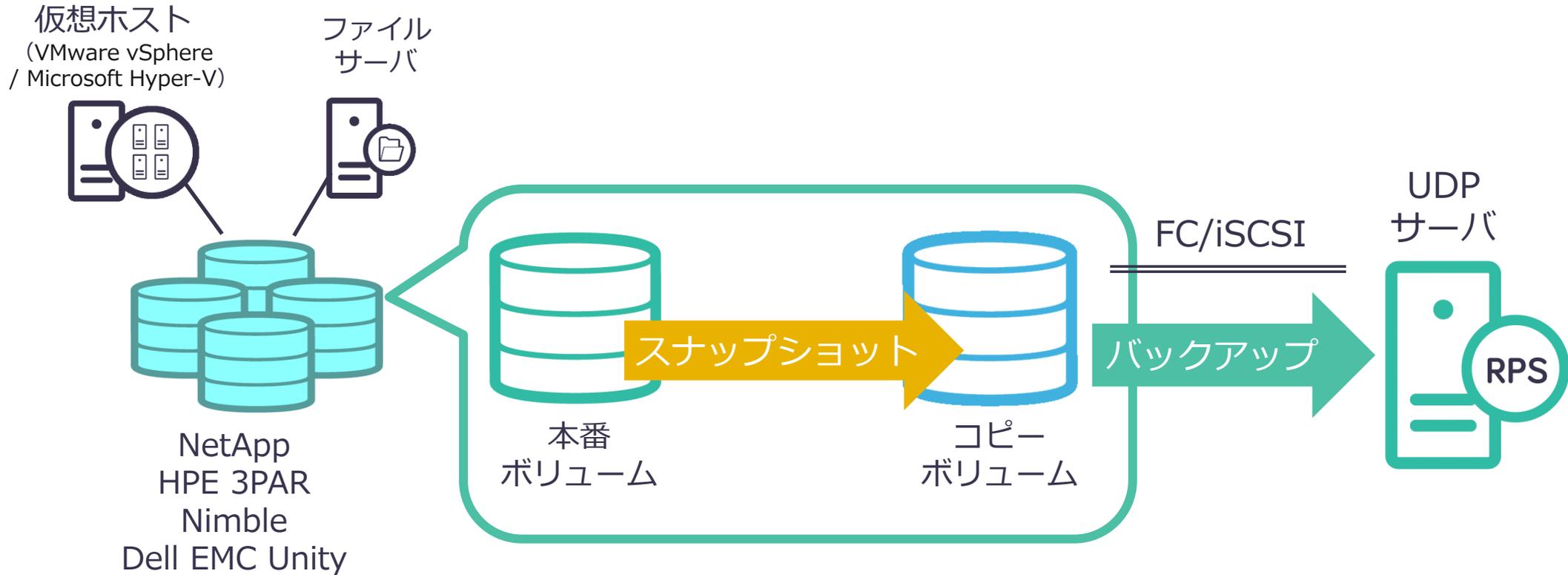
ユーザごとに操作権限を設定してセキュリティを強化



大容量データの高速バックアップ

ここがポイント！

- ➔ ハードウェアスナップショットと連携した高速バックアップを実現
- ➔ VM 領域やファイルサーバ領域のLANフリーバックアップが可能





その他の機能

停止中の仮想マシンのバックアップおよびファイル単位のリストア

- Windows 仮想マシンが停止中に取得したバックアップデータからファイル単位のリストアが可能
- VMware vSphere および Microsoft Hyper-V 環境で利用可能

Microsoft Hyper-V クラスタ環境のサポート

- Microsoft Hyper-V クラスタ上の仮想マシンをエージェントレスでバックアップ
- ライブマイグレーションで移動した仮想マシンのバックアップも対応

仮想マシンの自動検出 + 自動バックアップ

- VMware vSphere や Microsoft Hyper-Vの仮想マシンを定期的に自動検出し、管理者にメールで通知
- VMware / Hyper-V 環境の新規仮想マシンを自動的に登録してプランに追加できるため、新規ノード追加時の漏れが無いバックアップと、運用の効率化が可能

様々なVMware vSphere 環境のサポート

VMware vSphere vMotion、HA、vSANや vNetwork Distributed Switch (vDS)が利用されている環境のバックアップおよびリストアをサポート



Arcserve UDPのフォーカスエリア



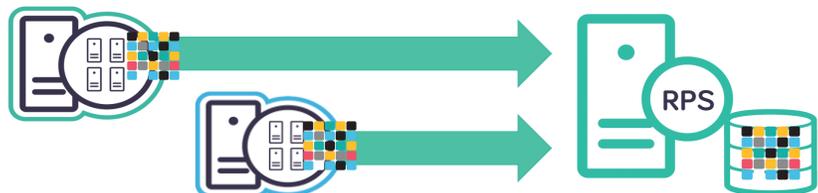


災害対策を適切なコストで実現

災害対策ソリューションに求められる多くの機能を盛り込みました

バックアップデータの重複排除

エージェントで重複排除を実行！複数サーバ間の重複排除も行い、少ない容量で多くの世代を残せる



バックアップデータのレプリケート

標準機能でバックアップデータの転送機能を搭載！遠隔地への保管に最適



仮想スタンバイサーバの自動作成

バックアップデータを元に仮想マシン作成
障害時に代替機として利用
遠隔地で利用し事業継続が可能



インスタント VM

バックアップデータから直接起動の仮想マシンを本番サーバの替わりとして利用可能

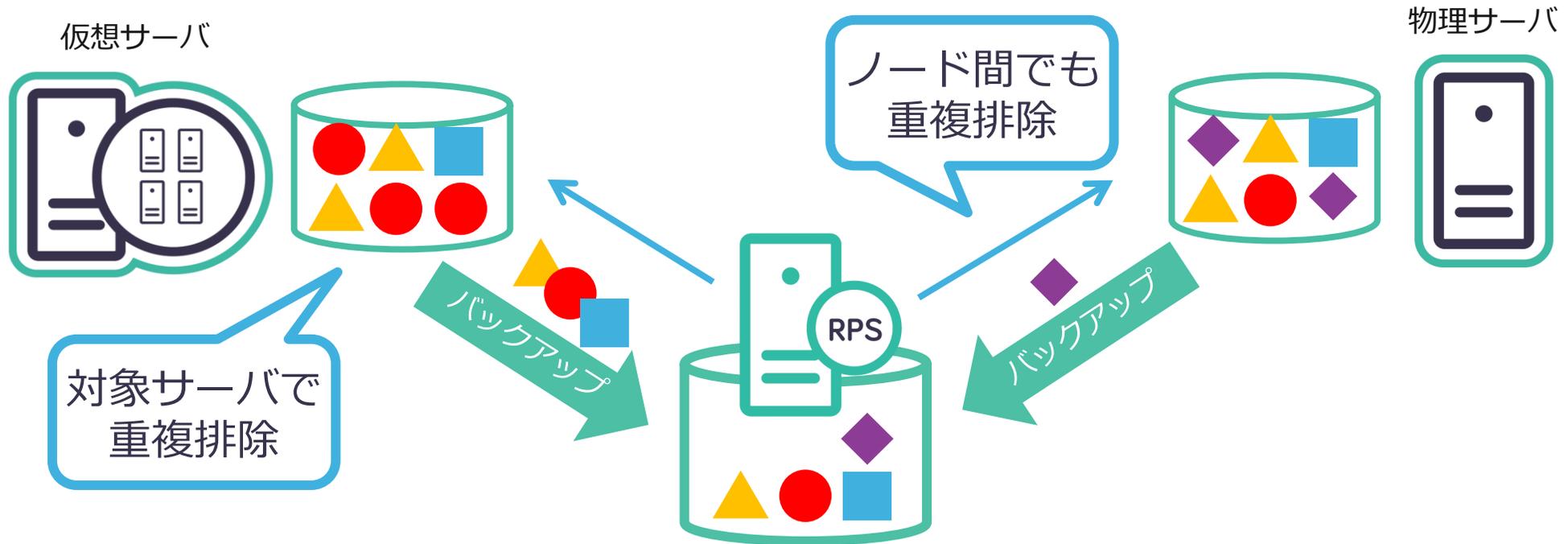




重複排除によるバックアップデータの大幅削減

こんな時に
便利！

- ➔ バックアップデータ容量を少なく保存したい
- ➔ ネットワークに流れるデータ量を少なくしたい



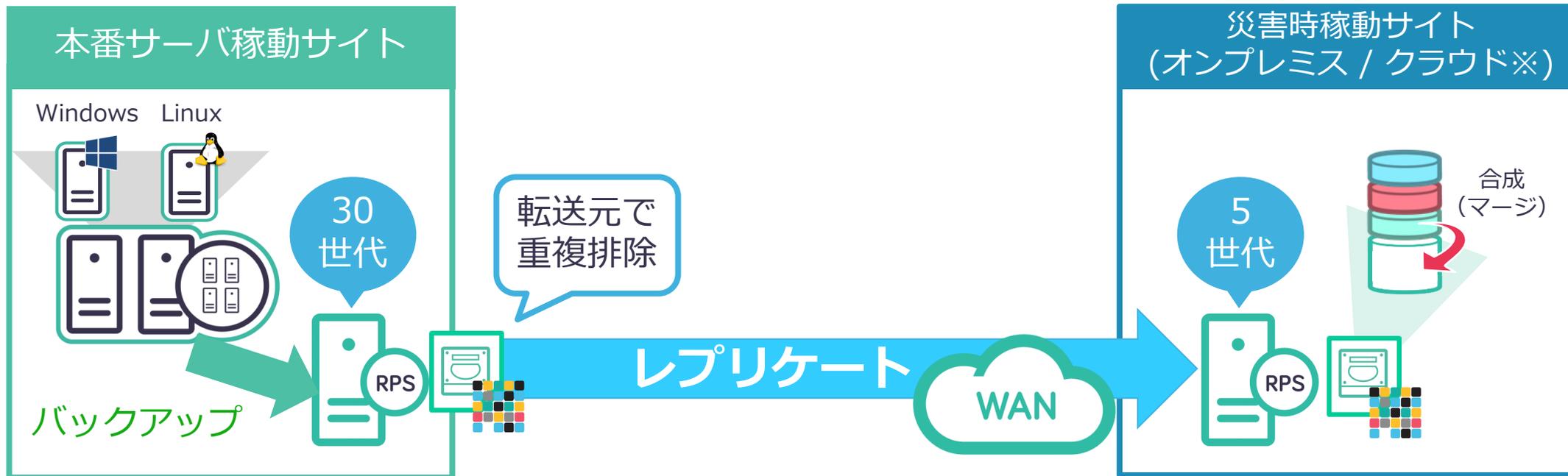
ブロック増分バックアップ + 重複排除を利用して
更に少ない容量で多くの世代を保管できる



バックアップデータの遠隔地への転送

こんな時に
便利！

- ➔ バックアップ データを遠隔地に保管しておきたい
- ➔ WANに流れるデータは**更に**少なくしたい



重複排除で回線
使用量を更に削減

特定の曜日・時間を指定
して転送できる

転送先での世代数を
個別に設定できる

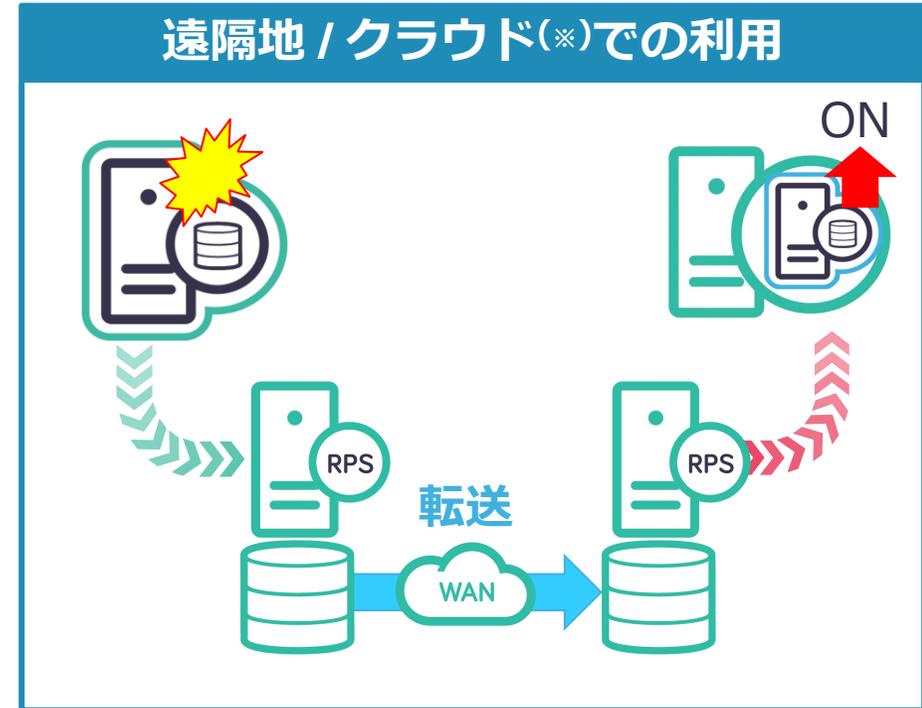
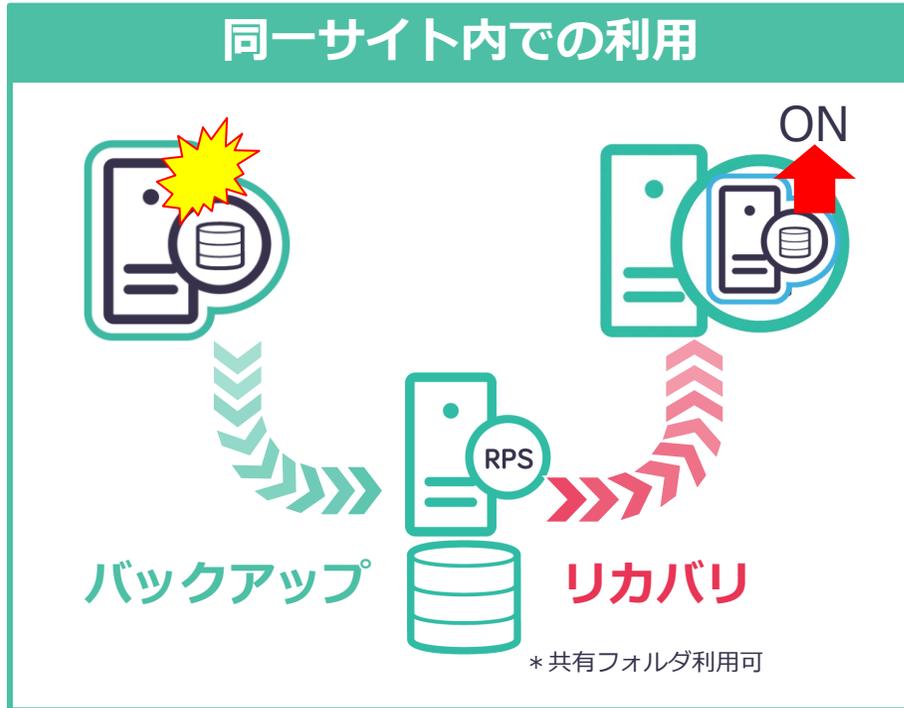
※ レプリケート先には復旧ポイントサーバ (RPS) が必要です。Arcserve UDP Cloud Hybrid には RPS がインストールされており、レプリケート先として利用することができます。



仮想スタンバイサーバによる業務継続

こんな時に
便利！

- ➔ 障害時にリストア作業せず、より早く環境を利用したい
- ➔ 災害時には遠隔地またはクラウドでサーバを即継続利用したい



復旧済みの仮想マシンで
素早く業務を再開

ローカル / 遠隔地でも構成
できる

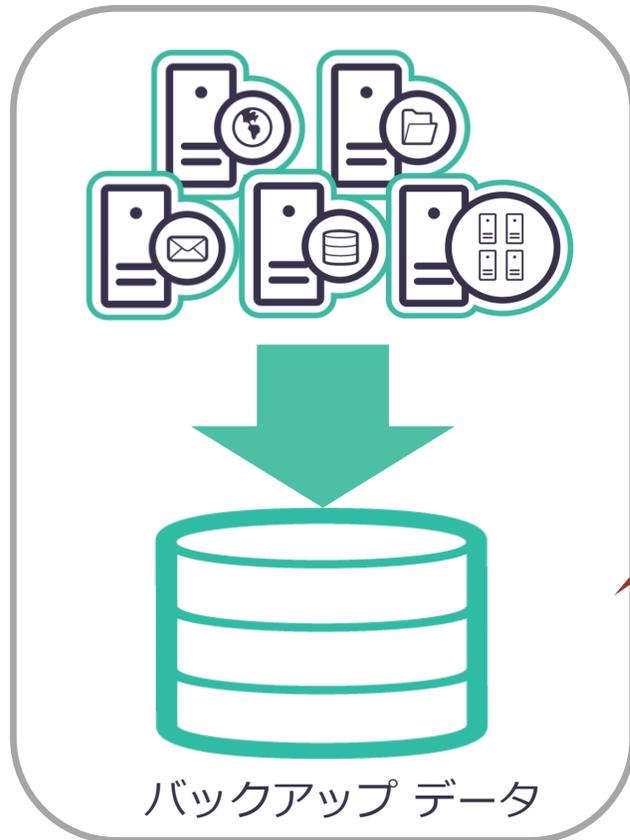
複数のスナップショット
から適切な時点に戻せる



インスタント VM で本番サーバの替わりを即利用

こんな時に
便利！

- 予算が無く、代替環境をあらかじめ用意していない場合でも直ぐに業務を再開したい
- ウイルスなどの被害時に**本番サーバの替わり**を用意したい



数ステップの
簡単なウィザードで
僅か10分ほどで起動

インスタントVM



復旧先の仮想環境
(vSphere / Hyper-V / AHV
/ AWS EC2 / MS Azure) ※

バックアップデータから
直接サーバ起動

※WindowsのIVMは vSphere, Hyper-V, Arcserve UDP Cloud Hybrid 環境のみ



インスタント VMと仮想スタンバイとの違い

低コスト

インスタント VM

※WindowsのIVMはvSphere, Hyper-V, Arcserve UDP Cloud Hybrid環境のみ

- ❑ 事前準備が不要
- ❑ バックアップデータを参照するVMを起動
- ❑ VM 格納用のディスク領域は不要
- ❑ Windows & Linux をサポート
- ❑ バックアップデータの健全性確認に利用できるため、ランサムウェア対策にもお勧め

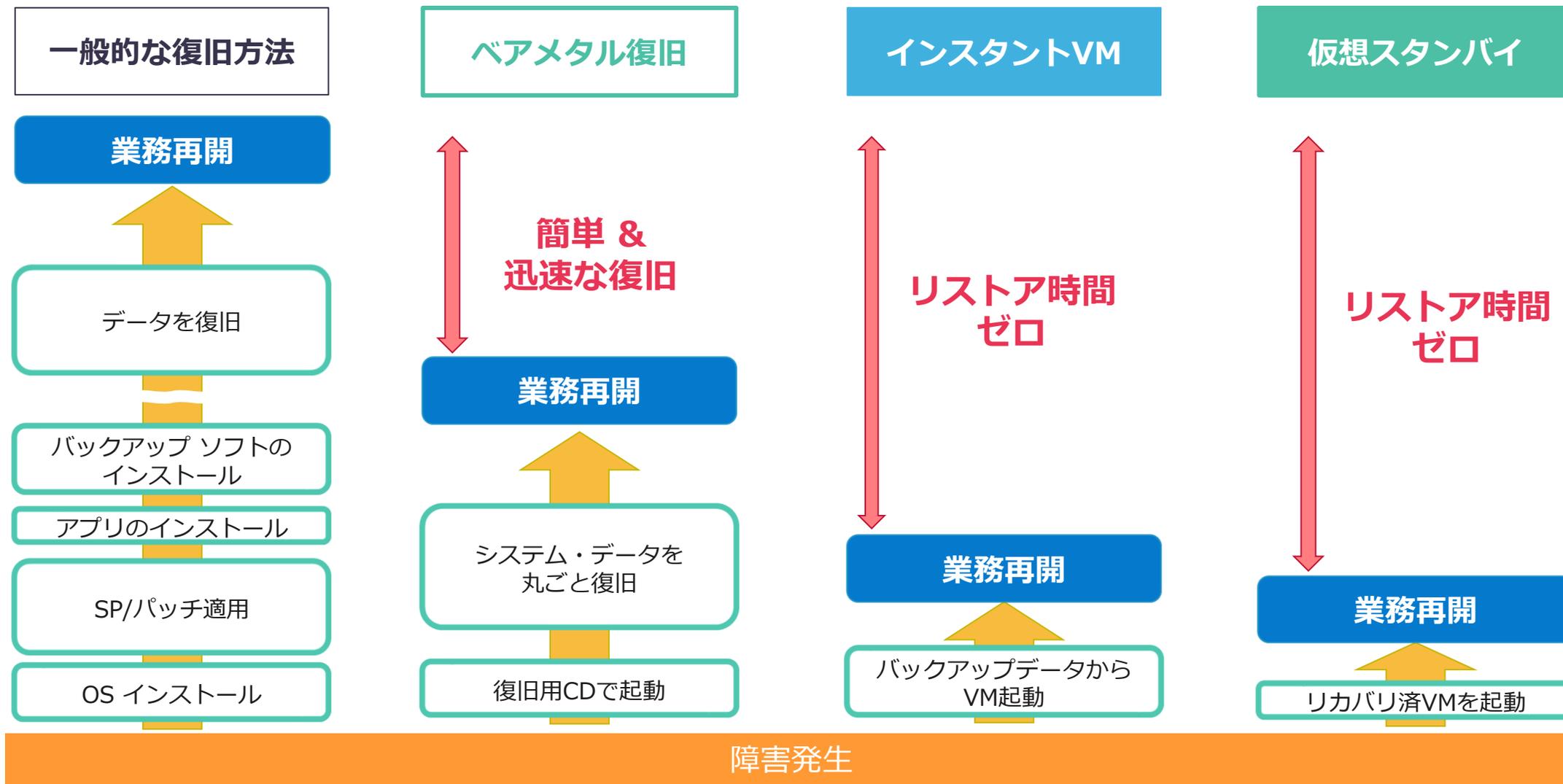
低遅延

仮想スタンバイ

- ❑ バックアップ時にリカバリまで実行済
- ❑ バックアップデータを参照しないVMを起動するので、遅延が少ない
- ❑ スタンバイVM分のディスクが必要
- ❑ Windows をサポート



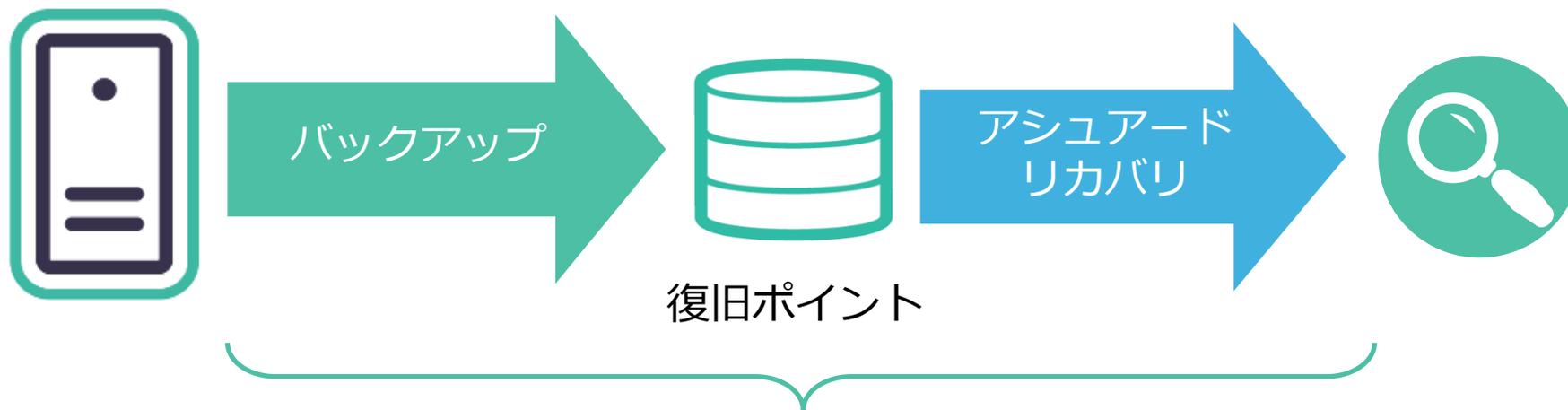
<参考> 業務再開までの時間で比較





アシュアード リカバリ

バックアップ データ (復旧ポイント) が
リストア可能な状態であることを自動確認



バックアップから確認処理の後始末までを全自動化

Windows/Linux/仮想の
バックアップとレプリケート
後のデータを検証

確認結果を
メールで通知

手動、もしくは曜日・時間
を指定して実行



復旧ポイントに対する確認方法

インスタントVMを利用して、 システムの正常起動を確認

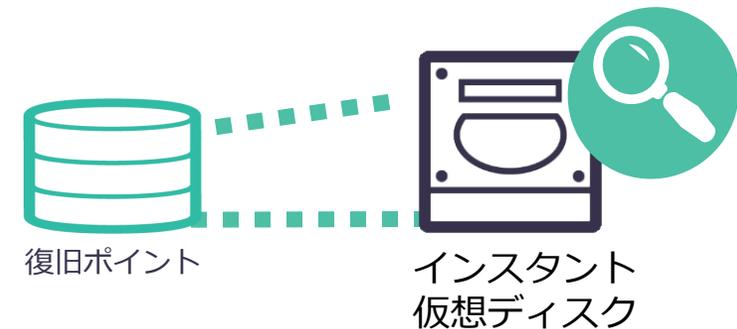


[確認のポイント]

- システムが起動可能か?
- サービス実行が可能か?
- アプリケーション サービスの整合性は取れているか? (カスタムスクリプトを利用)

仮想ディスクを参照して、 データの状態を確認 *

*バックアップ対象がWindows OSのみ



[確認のポイント]

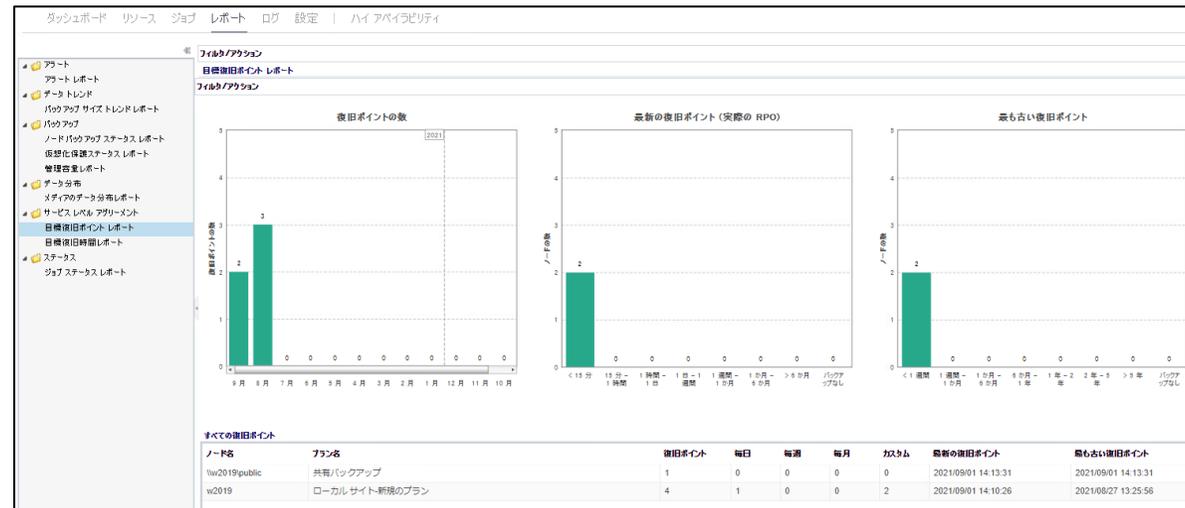
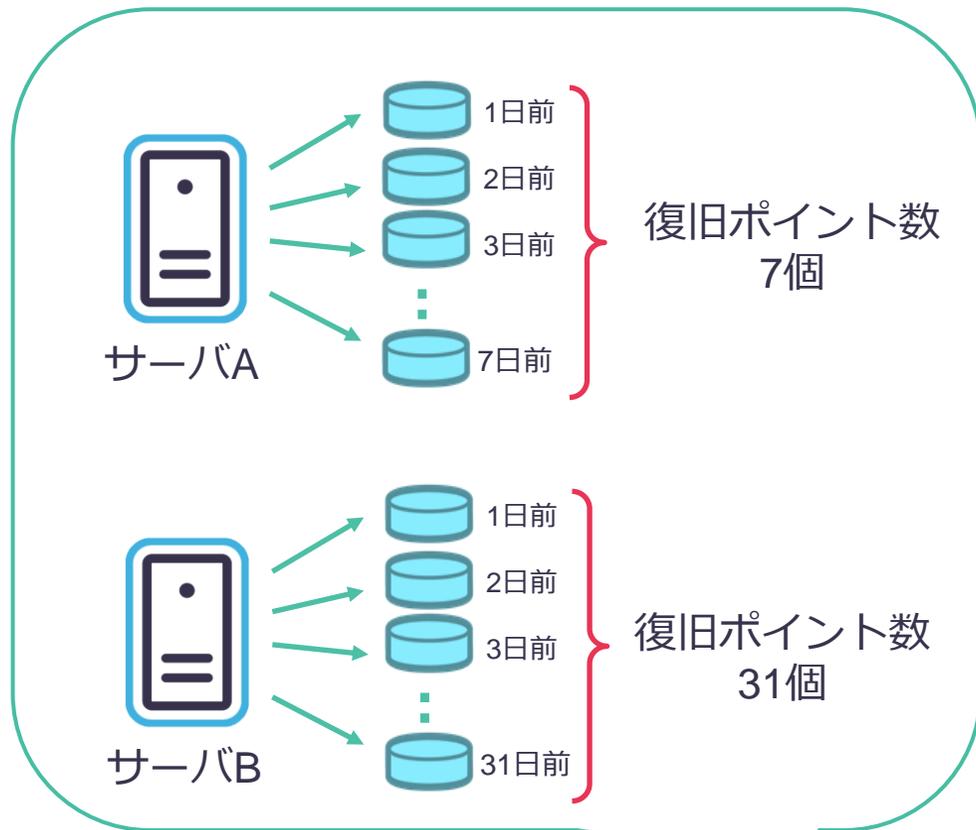
- ファイル システムの整合性が取れているか?
- ディスクに破損はないか?
 - ✓ chkdsk による確認も可能
- 特定ファイルの読み出しが可能か? (カスタムスクリプトを利用)

確認用ディスク スペース不要、短時間で自動確認！！
結果はRPO/RTOの可視化レポートとして出力可能

RPO の可視化 (SLA レポート)

サーバ毎にどの時点まで戻せるかを可視化

目標復旧ポイント レポート画面



一定期間内の復旧ポイント数を各ノード毎に表示

UDPコンソール  →  自動作成したレポートをメールで転送可



RTO の可視化 (SLA レポート)

設定した目標復旧時間内に復旧できるかを可視化

測定対象

アシュアード リカバリ



BMR



インスタントVM



ファイル リストア



VM復旧



UDPコンソール



自動作成したレポートをメールで転送可

目標復旧時間レポート画面



実際の復旧時間と、目標の復旧時間を比較した結果を色分け表示



Arcserve Backup の利用で、より多彩な要件に対応

UDP に対応するバックアップ構成を Arcserve Backup でさらに拡張

ファイル/フォルダ単位の バックアップ

特定のファイルやフォルダのみを指定して
バックアップ



Unix サーバのバックアップ

仮想環境に統合できないUnixサーバも
まとめてバックアップ



テープ バックアップの強化

D2Tでの直接バックアップや複数ドライブ
搭載のテープライブラリの利用をサポート



Arcserve Backupのその他機能

Arcserve Backupのエージェント/オプション
機能をすべて利用可能※





災害対策をさらに強化

Arcserve Replication/HA の機能を利用し、より細かな災害対策要件にも対応

ファイル単位のレプリケーション

ファイルサーバのリアルタイム レプリケーションにより、鮮度の高いデータを遠隔保護



P

アプリケーションの可用性向上

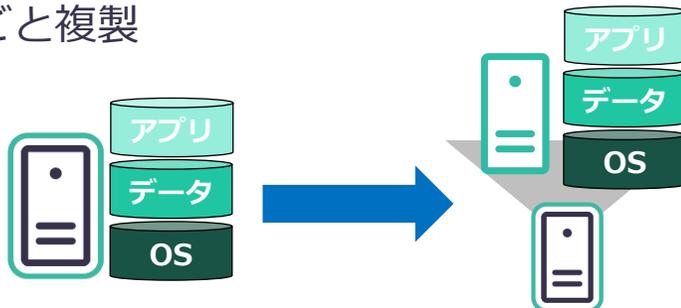
MS SQL ServerやOracleデータベースなどアプリケーションのデータを複製、スイッチオーバーまでサポート



P+

OS/データのまるごと複製にも対応

フル システム シナリオで、OS/データを丸ごと複製



P+

Arcserve RHA その他機能

Arcserve Replication/HAのシナリオおよび機能をすべて利用可能 ※

アシュアード
リカバリサービス
監視Exchange
SQL Server
Oracle
IIS

etc

P+



2. 様々なクラウド利用のニーズへの対応



様々なクラウド利用のニーズへの対応

クラウド利用のニーズ

オンプレミス
の災害対策

クラウドで
即事業継続

IaaS/PaaS/SaaS
データの保護



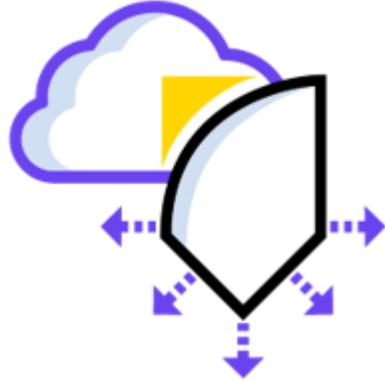
利用可能なクラウドサービス

Arcserve
クラウドサービス

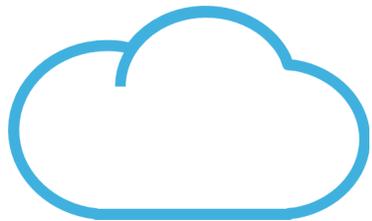
パブリック
クラウドサービス
(AWS、Azure)



利用可能なクラウドサービス①



Arcserve クラウドサービス



パブリック クラウドサービス



Arcserve クラウドサービス

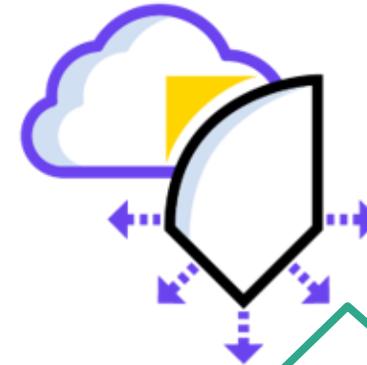
～ Arcserve UDP Cloud Hybrid とは ～



Arcserve UDP / Arcserve UDP Appliance が持つ復旧ポイントサーバ（RPS）間のレプリケート（複製）機能を活用し、オンプレミスでの利便性の高いバックアップと、災害に備えた遠隔バックアップの「**ハイブリッド**」を実現するサービスです。

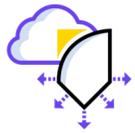


Arcserve UDP Cloud Hybrid



日常的なデータ破損やシステム障害には、手元のバックアップから**迅速に復旧**！

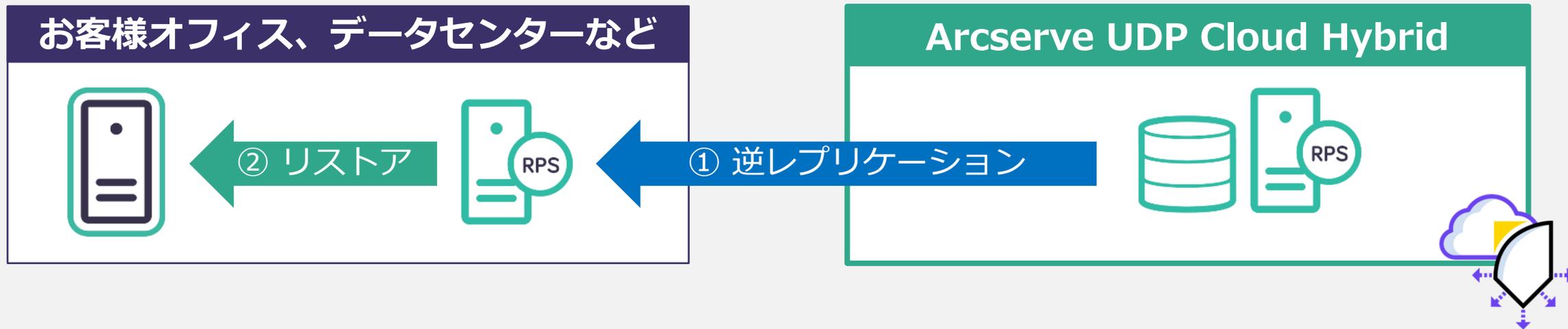
災害などによるサイト障害時には、**遠隔地のクラウド**にあるバックアップから復旧！



Arcserve UDP Cloud Hybrid の利用シーン1 ～ 災害によるサイト障害からシステムを復旧

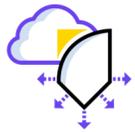


オンプレミスのバックアップ データが災害などで失われた場合には、クラウドから RPS へ逆レプリケーションし (①)、そのバックアップ データからシステムをリストアします (②)。



※ ファイル/フォルダ の直接リストアも可能です。ただし、Linux の場合 Compute リソースの購入が必要です。

※ 逆レプリケーションを安定して行うには、お客様サイトで固定のグローバル IP アドレスを契約されることをお勧めします。

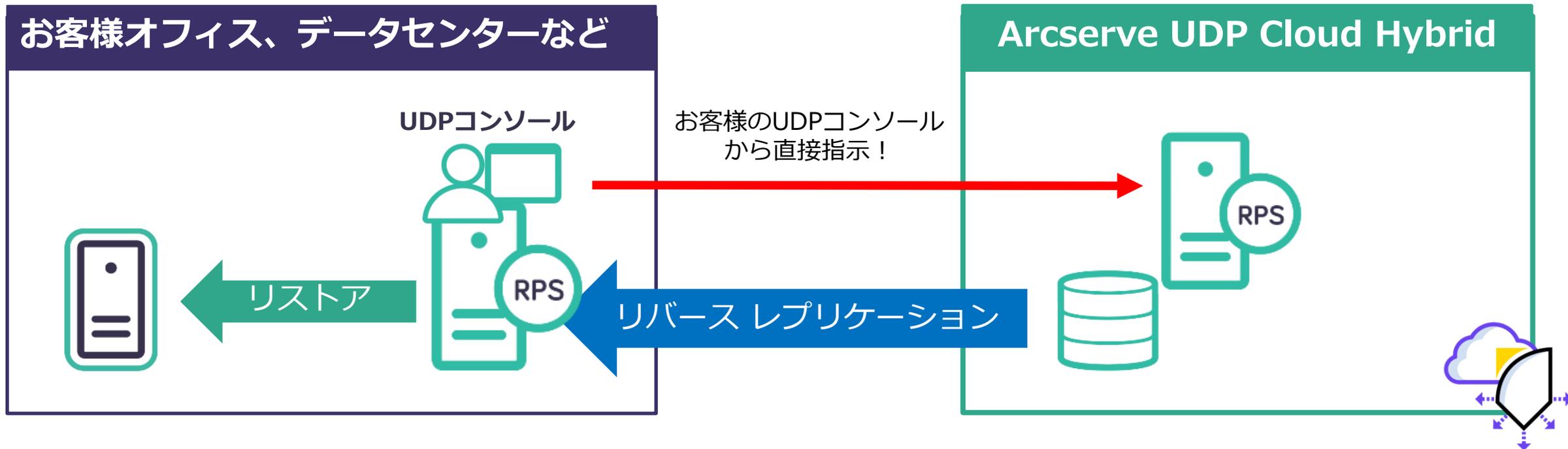


Arcserve UDP Cloud Hybrid の機能強化

8.0



リバースレプリケーション機能により、バックアップデータをクラウドから複製する際のお客様側ホスト名の提供やポート開放が不要に！！



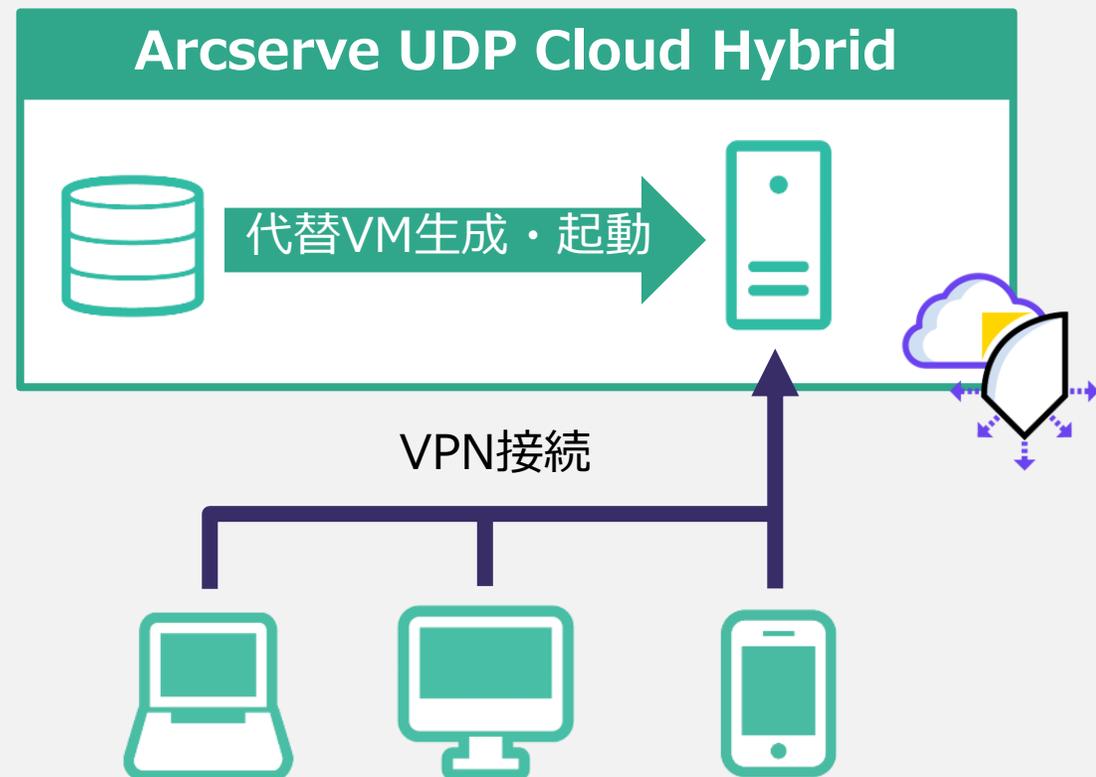
いざという時に必要なバックアップデータの複製が、手間なくいつでも実行可能



Arcserve UDP Cloud Hybrid の利用シーン2 ～ 災害時にクラウド上でシステムを継続利用



本番システムの障害時には、インスタントVMまたは仮想スタンバイ機能で、本番システムの代替仮想マシン（VM）を起動。VPN経由で代替VMにアクセスし業務を継続できます。

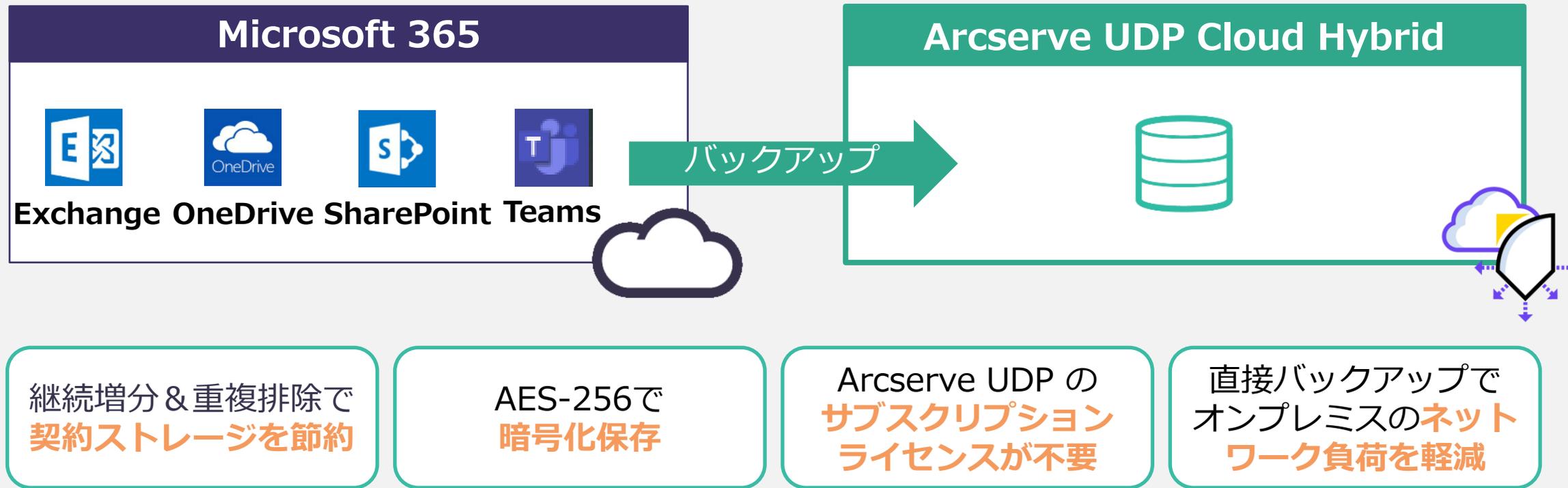


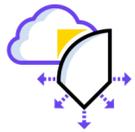


Arcserve UDP Cloud Hybrid の利用シーン3 ～ Microsoft 365 のデータを直接クラウドへバックアップ



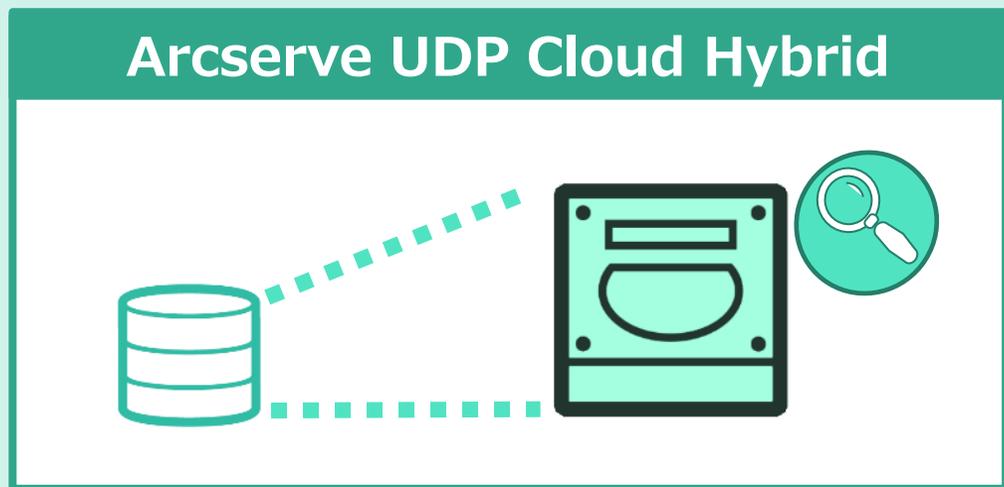
Microsoft 365 に限り Arcserve UDP Cloud Hybrid に**直接バックアップ**できます。
しかも Arcserve UDP の**サブスクリプションは不要**！
退職者アカウントなどの保存期間を過ぎたファイル/メールを復旧できます。



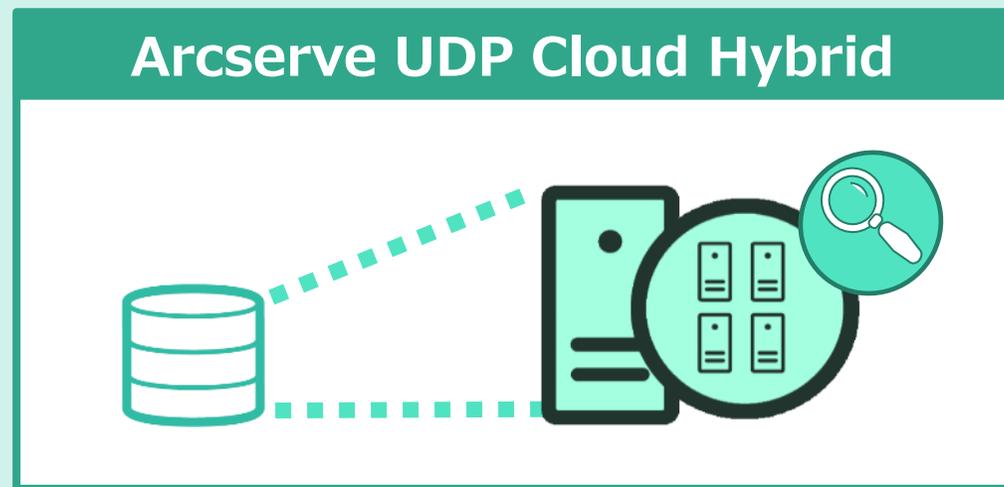


Arcserve UDP Cloud Hybrid で使えるアシュアード リカバリ機能 ～ レプリケートされたデータがリストア可能か自動でチェック

Windows/Microsoft365 のバックアップデータは**インスタント仮想ディスク方式**※1で状態確認



Windows/Linux のバックアップデータは**インスタントVM方式**※2で起動確認



スケジュールを指定
して自動実行

確認結果を管理者へ
メールで通知

Arcserve UDPの
ライセンスは
Advanced で OK !

※1 CHKDSK でファイルシステムの整合性を確認
できます。

※2 Compute リソースの購入が必要です。



2つのコスト メリットで “はじめやすい”



導入
コスト



クラウド インスタンスの構築/設定作業は一切不要

- ◆ サービス契約後、クラウドを利用したバックアップ/アーカイブ運用を すぐに開始 できる状態でクラウド アカウントをご提供します
- ◆ インスタンス構築に関連する 面倒な設定作業は一切不要。
ネットワークやセキュリティも設定済なので、すぐに運用が始められます



ランニング
コスト



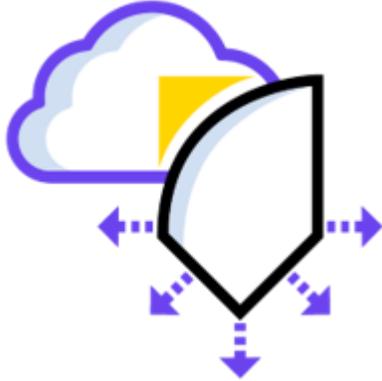
ご契約いただいたストレージ範囲内なら台数無制限で保護

- ◆ 転送量に対する 課金がなく、ストレージ課金も年契約で固定なのでコスト見積もりも容易。契約期間中でも 容量増加の追加契約 ができるので契約時の容量が不足して運用を止める心配がありません
- ◆ ストレージやインスタンスのメンテナンスは、全てArcserveにお任せ、メンテナンス作業は一切不要です

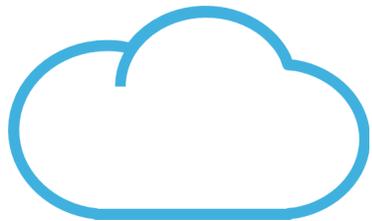




クラウド対応



Arcserve クラウドサービス



パブリック クラウドサービス



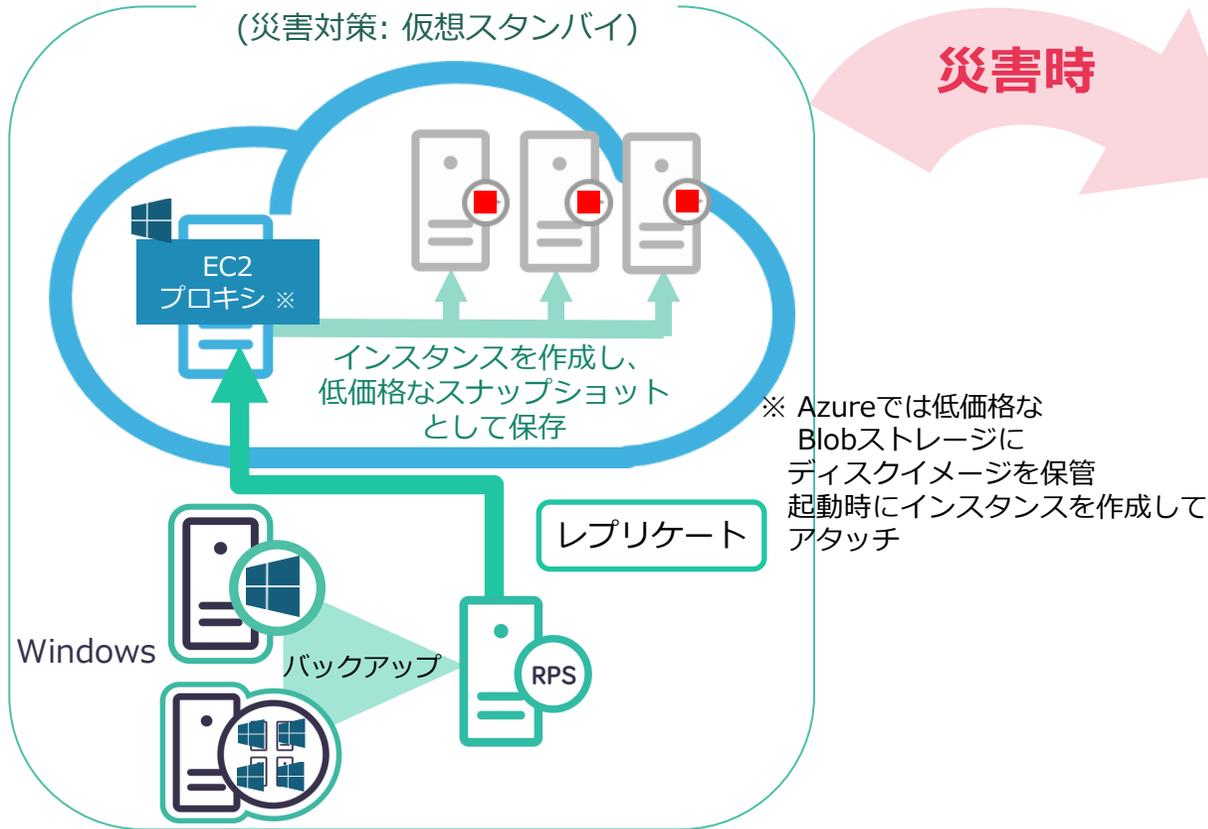
Amazon EC2 および Microsoft Azure を利用した Windows 環境の事業継続



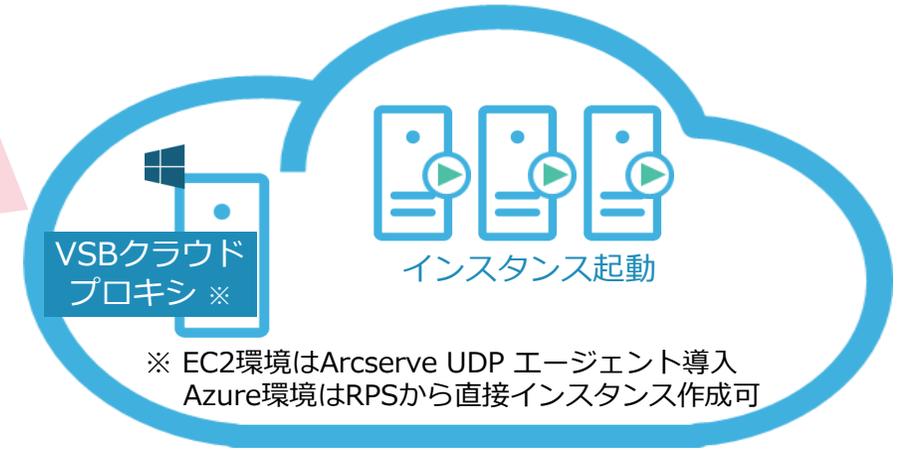
リストア時間 “ゼロ” でクラウドに**即**事業継続

通常時

(災害対策: 仮想スタンバイ)



災害時



作成済みインスタンスを起動するだけで業務サービスを即再開

大規模災害対応

オンプレミスへの復旧も可
(RPSレプリケート機能利用)



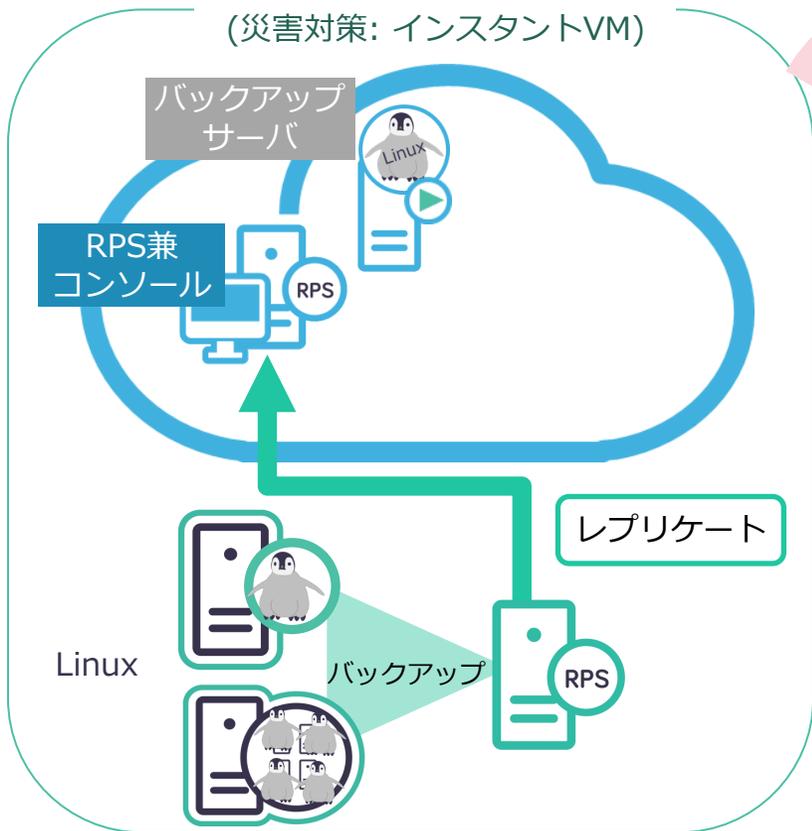
Amazon EC2 および Microsoft Azure を利用した Linux 環境の事業継続



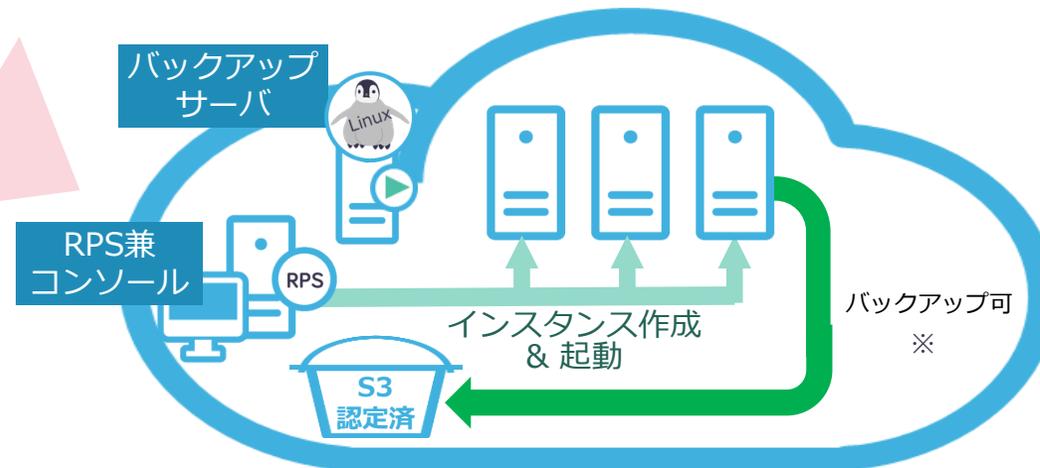
リストア時間 “**ゼロ**” でクラウドに**即**事業継続

通常時

(災害対策: インスタントVM)



災害時



わずか数ステップでインスタンス作成し、業務サービスを即再開

大規模災害対応

インスタントVMから
オンプレミスへのBMRも可

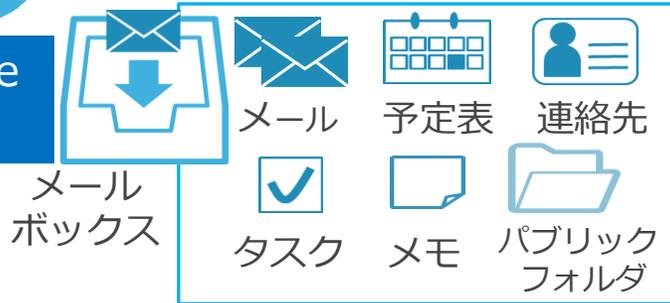


Microsoft 365 のバックアップ

重要データや退職者のメールをクラウドやオンプレミスにバックアップ 一括/個別アイテム単位で復旧

Microsoft 365

Exchange Online



- ! -完全削除アイテム保持期間 => 14日
- 削除済みメールボックス保持期間 => 30日

SharePoint Online



- ! -テナント初期容量 1TB + 10GB × ユーザ数
- 削除済みアイテムの保持期間 => 93日

OneDrive



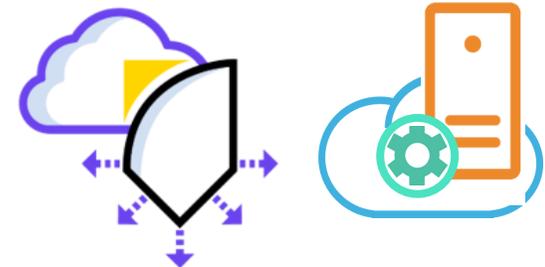
- ! -ストレージ初期容量 1TB × ユーザ数
- 削除済みアイテムの保持期間 => 93日

Teams 8.0



- ! -削除済みアイテム => 保持ポリシーに基づき削除

クラウド



オンプレミス



**M365用サブスクリプション
大幅価格改定!**
 ¥55,000 → ¥26,400(税込)
 (10ユーザ)



Microsoft 365 バックアップ機能の拡張

8.0



Microsoft 365 先進認証対応

- Exchange Online / SharePoint Online / OneDrive のバックアップおよびリストアで先進認証を利用したセキュアな接続が可能
- お客様の環境に合わせ、従来の基本認証でのバックアップも対応可能

SharePoint Online の機能追加

- 新規追加サイトを自動検出してバックアップ
 - 個人サイトのバックアップに対応
 - 複数サイトの一括バックアップ設定が可能
 - 削除されたサイトの完全復旧に対応
 - 複数サイトのバックアップ時の進捗表示改善
- ※数千サイトをバックアップする際、メタベースをマルチスレッド処理することでパフォーマンスを改善

8.1

OneDrive のリストア強化

- 直接 OneDrive へのリストアが可能に
- OneDrive の別の場所へのリストアも可能

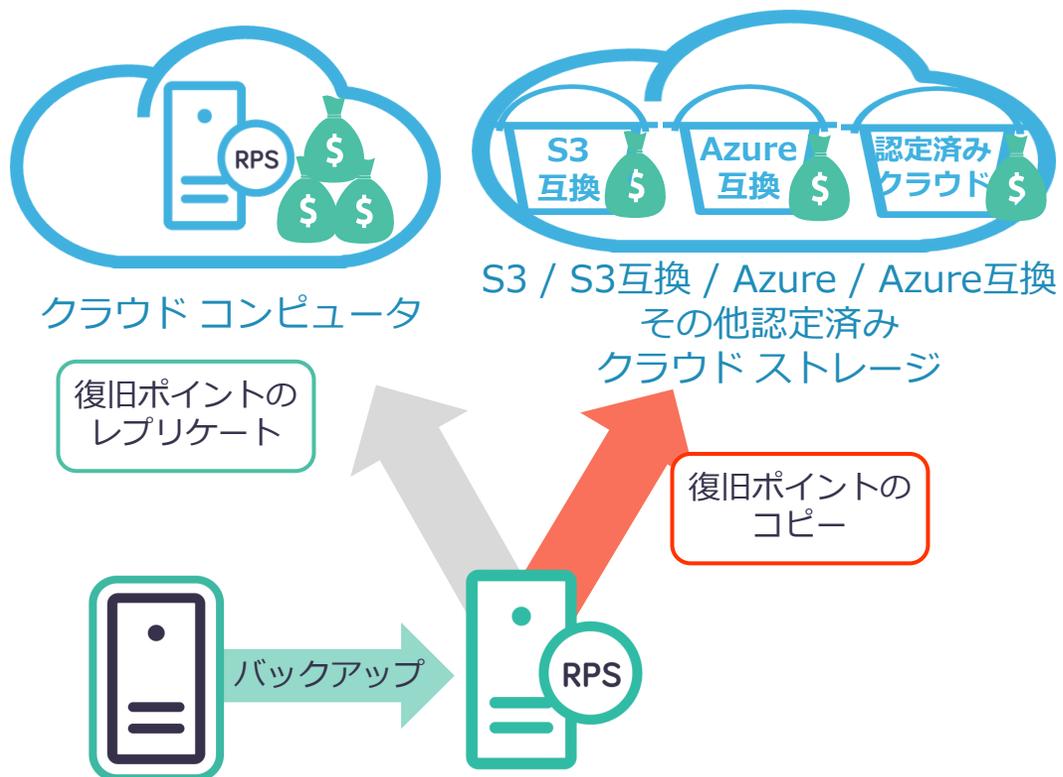
グループ単位で効率的にバックアップ設定

- 配布グループ、会議室メールボックス、備品用メールボックスのバックアップに対応
- セキュリティグループ単位でのバックアップが可能



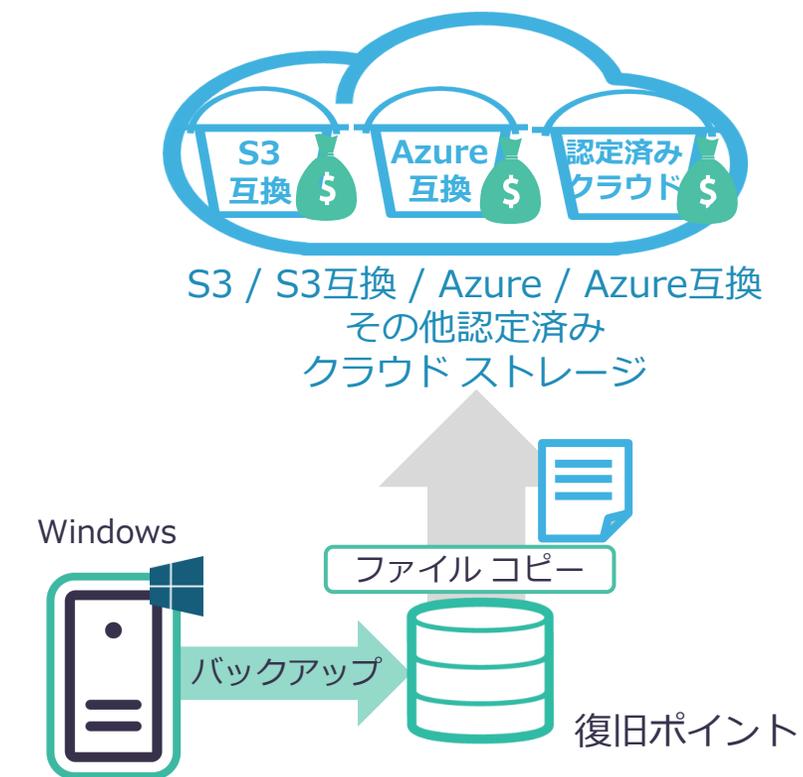
クラウド ストレージ利用の拡張

バックアップ データのクラウド保管



クラウド ストレージでコストを削減

重要ファイルをクラウド保管



クラウド ストレージを自由に選択



Amazon S3 / S3 互換への直接バックアップ

手軽なクラウドストレージを利用して Linux 環境の災害対策を実現



オンプレミスの
ディスク削減

Windows サーバ(RPS)不要

オンプレミスへのBMRも可

※ クラウドストレージからのファイル単位リストア可



様々なクラウド利用のソリューションを提供

オンプレミスの の災害対策

オフサイト保管:

- UDP Cloud Hybrid / EC2 / Azure への RPS間レプリケート
- 復旧ポイント(バックアップデータ)のコピー
- ファイル コピー

ダイレクト バックアップ:

- Linux サーバを S3 に直接バックアップおよびオンプレミスへの BMR

クラウドで 即事業継続

バックアップデータを用いた事業継続:

- UDP Cloud Hybrid への仮想スタンバイ、インスタントVM
- AWS EC2 / Azure への仮想スタンバイ、インスタントVM

IaaS/PaaS/SaaS データの保護

IaaS/PaaS:

- クラウド コンピュータのバックアップ
- EC2インスタンスからオンプレミスへのBMR
- EC2 / Azure のLinux インスタンスのバックアップおよびBMR

SaaS:

- Microsoft 365 バックアップ (Exchange / SharePoint / OneDrive / Teams)



3. セキュリティの確保、ランサムウェア対策



Arcserve UDP 管理のセキュリティ強化 8.1

管理画面へのログオン方法として多要素認証（MFA）が利用可能に



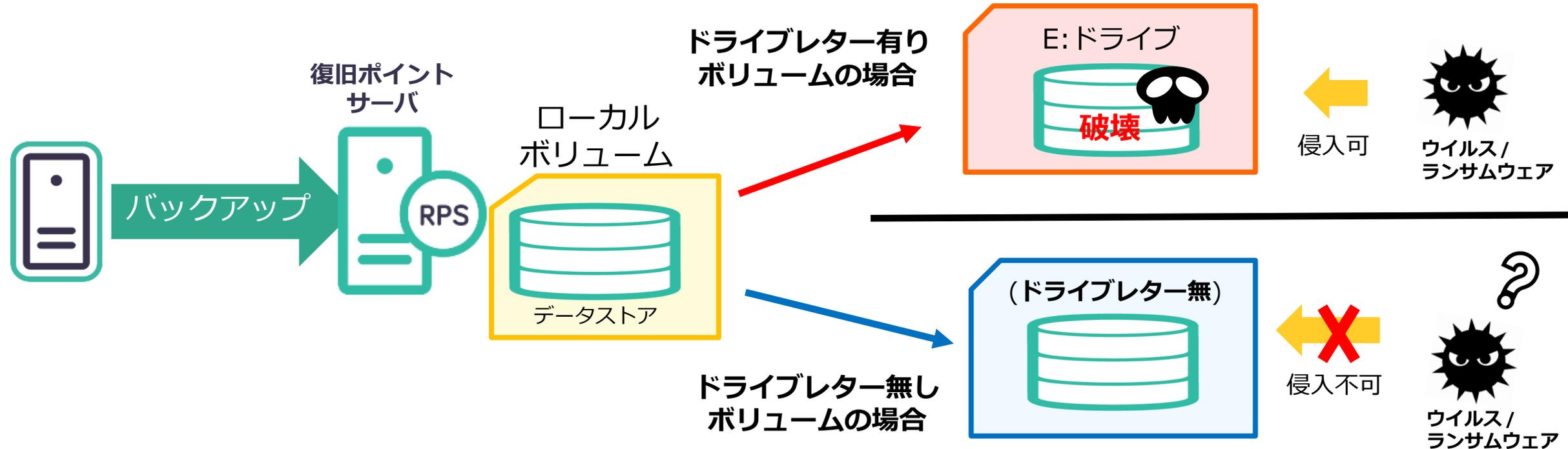
①' 確認コード入力要求

パスワード入力に加えて、確認コードの受信/入力を必要とすることで不正アクセス リスクを低減



復旧ポイントサーバのセキュリティ強化

復旧ポイントサーバ（RPS）内のエクスプローラーから見えない領域にバックアップデータを保管



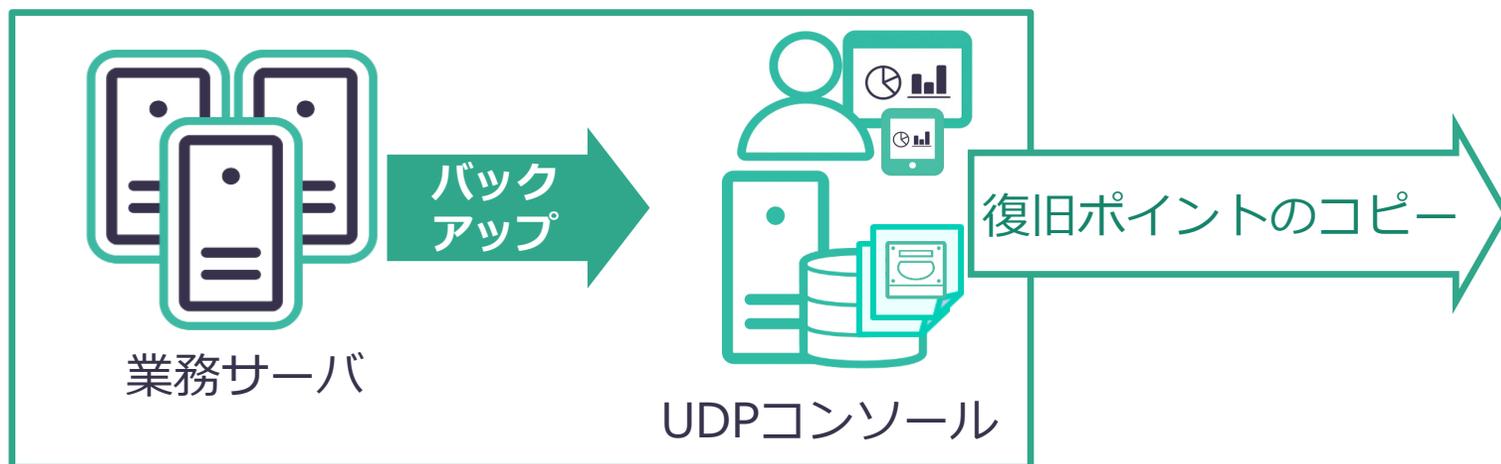
RPS 内に侵入したウイルスやランサムウェアからバックアップデータを保護



オブジェクトロックへの対応でランサムウェア対策を強化 8.0

不変ストレージ（オブジェクトロック機能）に対応 バックアップデータの改ざんを防止

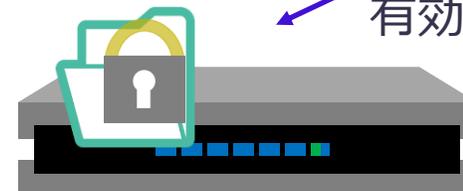
オンプレミス



- Amazon S3 8.1
- Wasabi Hot Cloud Storage



オブジェクトロック
有効のバケット



- Nutanix Objects 8.1

法規制やコンプライアンス
などのデータ保持に利用

ストレージ側の設定で
保持期間後の削除も可能

フルイメージを戻して
システム復旧の利用が可



4.ライセンス



ライセンスの課金対象

ライセンスは「**バックアップ対象**」にのみ必要です。

バックアップ対象ノード数またはバックアップ対象サーバのソケット数のライセンスが必要です。
コンソールおよび 復旧ポイントサーバ (RPS : バックアップ保存先サーバ) にライセンスは不要です。

バックアップ対象



物理サーバ



仮想サーバ



クライアントPC



Microsoft 365

- Exchange Online
- SharePoint Online
- One Drive
- Teams



特定のオプション



管理コンポーネント



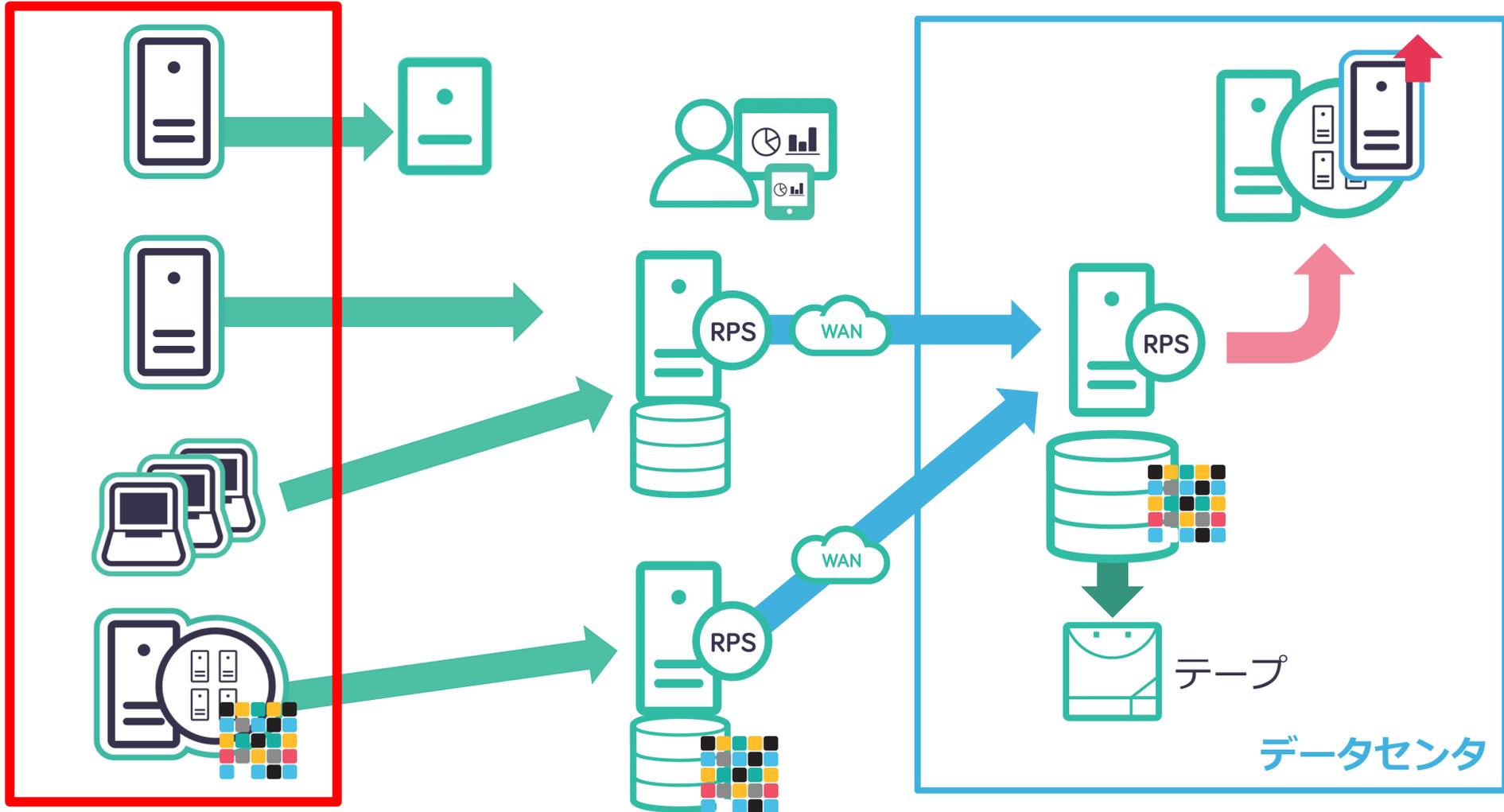
インストールメディア

※Arcserve Replication/High Availability 機能を利用する場合、ライセンスは複製元と複製先サーバ (物理/仮想ホスト)の両方にライセンスが必要です。



機能を追加してもライセンスは変わりません！

ライセンスの対象





Editionの種類 と 含まれる機能

バックアップ要件	Edition			クライアント用	利用 コンポーネント	
	Advanced / for Nutanix	Premium	Premium Plus			Workstation
イメージバックアップ/共有フォルダ(CIFS/NFS ※1)のバックアップ	✓	✓	✓	✓	Arcserve UDP	
重複排除	✓	✓	✓	✓		
統合管理	✓	✓	✓	✓		
バックアップデータの重複排除や転送 (レプリケート)	✓	✓	✓	✓		
仮想マシンのエージェントレスバックアップ	✓	✓	✓	✓		
仮想スタンバイ/インスタント VM	✓	✓	✓	※2		
バックアップデータのテープ保管	✓	✓	✓			
VSSライタを利用したオンラインバックアップ ※3	✓	✓	✓	※4		
ストレージのハードウェアスナップショット対応 (NetApp/HPE 3PAR/NIMBLE/DellEMC Unity)		✓	✓			
アシュワードリカバリとSLAレポート		✓	✓			
役割ベースの管理		✓	✓			
Arcserve Backup すべての機能 / 全エージェント/全オプションの利用 ※5		✓	✓			Arcserve Backup
Arcserve Replication ファイル サーバのデータ複製		✓	✓			Arcserve Replication/HA
Arcserve Replication アプリケーション サーバのデータ複製			✓			
Arcserve High Availability ファイル / アプリケーション サーバの自動切替 ※5			✓			

※1 : AHV 上の仮想マシンまたは Nutanix Files のバックアップを行うには Advanced Edition for Nutanix を購入してください。

※2 : Workstation Edition では vSphere/Hyper-V への仮想スタンバイのみ行えます。

※3 : Microsoft 365 (Exchange Online、SharePoint Online、OneDrive および Teams) の保護には、別途専用のサブスクリプションを提供しています。

※4 : Microsoft SQL Server Express Editionのみオンラインバックアップをサポートします。

※5 : 「すべての機能」とは、日本語の動作要件に記載されている製品（機能）が対象です。



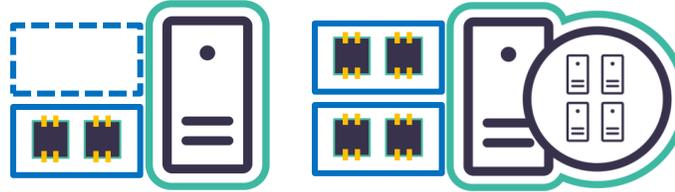
課金単位の選択



サーバ単位 課金 (per Server)

保護対象の物理サーバ台数分の
ライセンスを購入
(物理サーバに適用)

Advanced



ソケット単位 課金 (per Socket)

保護対象サーバのCPUソケッ
ト数分のライセンスを購入
(未使用ソケット分は不要)

Advanced/
Advanced for Nutanix/
Premium/Premium Plus



容量単位 課金 (per Terabyte)

保護対象サーバの総データ容
量分のライセンスを購入 ※1

Advanced/
Premium/Premium Plus

注：

1. Workstation Edition はクライアントPC台数の課金
2. Exchange, SharePoint および OneDrive はユーザ数での課金

※1 Microsoft 365 データの保護も可能



購入方法の選択

永続（パーペチュアル）ライセンスに加えて、初期投資の少ないサブスクリプションをご用意

エディション	サーバ単位 (Server) ※1			ソケット単位 (Socket) ※1		
	ライセンス+ 1年 メンテナンス	ライセンス+ 5年 メンテナンス	サブスクリプション ライセンス 1年	ライセンス+ 1年 メンテナンス	ライセンス+ 5年 メンテナンス	サブスクリプション ライセンス 1年
Advanced	¥100,000 (¥110,000)	¥168,000 (¥184,000)	¥33,600 (¥36,960)	¥100,000 (¥110,000)	¥168,000 (¥184,800)	¥33,600 (¥36,960)
Advanced for Nutanix	-	-	-	¥100,000 (¥110,000)	¥168,000 (¥184,800)	¥33,600 (¥36,960)
Premium	-	-	-	¥200,000 (¥220,000)	¥336,000 (¥369,600)	¥67,200 (¥73,920)
Premium Plus	-	-	-	¥300,000 (¥330,000)	¥500,000 (¥550,000)	¥100,800 (¥110,880)

エディション	容量単位 (1TB単位) ※1, ※2	
	サブスクリプション ライセンス 1年	サブスクリプション ライセンス 5年
Advanced	¥100,000 (¥110,000)	¥500,000 (¥550,000)
Premium Edition	¥200,000 (¥220,000)	¥1,000,000 (¥1,100,000)
Premium Plus	¥300,000 (¥330,000)	¥1,500,000 (¥1,650,000)

※1. 価格は税抜きです。カッコ内は税込み価格です
 ※2. サブスクリプションにはメンテナンスも付属します

← 従来の容量単位ライセンス
 (Advanced 1TB 1年メンテ付き ¥615,000~)と比較して、
たいへんお求めやすくなっています!

価格表: <https://www.arcserve.com/jp/jp-resources/licensing-options/>



Arcserve 無償ハンズオン セミナー & Web (動画) セミナー

Arcserve Backup

1. 入門編
2. システム復旧編

Arcserve UDP

1. 前編(Agent)
2. 後編(Server)
3. Linux Agent 編

Arcserve Replication/ High Availability

1. 前編 (Replication)
2. 後編 (HA)

お申し込みは

Arcserve セミナー

検索



まで。



お問い合わせはこちらから



Arcserve ポータルサイト : [arcserve.com/jp](https://www.arcserve.com/jp)
カタログセンター (カタログ、技術資料)

<https://www.arcserve.com/jp/jp-resources/catalog-center/>

Arcserve カタログセンター

検索



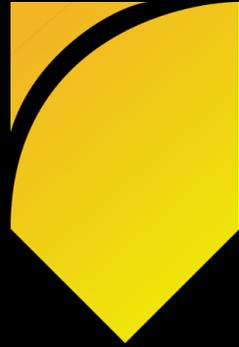
Arcserve ジャパン ダイレクト (購入前のお問い合わせ)

例 : 「この構成で必要なライセンスを教えてください」、
「Arcserve UDP はXXXに対応していますか?」、
「XXXはサポートされますか?」

フリーダイヤル : 0120-410-116

(平日 9 : 00 ~ 17 : 30 ※土曜・日曜・祝日・弊社定休日を除きます)

Webフォーム : <https://www.arcserve.com/jp/about/contact/call-me/>



arcserve®